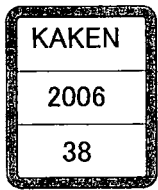


A quantitative research on the relationship between melody and words of chinese traditional music

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-08-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Ueda, Nozomu メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00051870

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.





中国伝統芸能の音曲と歌辞の関係についての計量的研究
越境する伝統芸能－江蘇如皋童子戯の事例研究から

課題番号：16520203

平成16年度～平成17年度科学研究費補助金
(基盤研究(C)) 研究成果報告書

平成18年3月

研究代表者 上田 望
金沢大学文学部助教授

金沢大学附属図書館



8311-52074-7

目次

序1
越境する伝統芸能－江蘇如皋童子戯の事例研究から（上田 望）3
付録	
Ⅰ．如皋童子戯系列訪談（朱 瑞平整理、上田 望校）29
Ⅱ．《魏九榮出世》校注及び影印（上田 望・朱 瑞平校注）65
Ⅲ．如皋童子戯唱本目録（稿）（上田 望編）129

金沢大学附属図書館



8311-52074-7

発行 金沢大学

序

本研究は、科学研究費（基盤研究C）「中国伝統芸能の音曲と歌辞の関係についての計量的研究」（平成16年～17年度 研究代表者：上田 望）の研究成果の一部をまとめたものである。この研究課題は、中国各地に伝承される無数の芸能・演劇が各々どのように関わり合っているのかを、音曲と歌辞の面から明らかにしようとする試みであり、

1) 音曲と歌辞に関するデータを文献や現地調査から収集し、これらを電子データ（MIDIファイルなど）に変換して整理し、データベースとして蓄積する

2) 分析プログラムを用いてこれらの電子データを処理し、音の連続性などいくつかの指標から音曲の特長を計量的に分析する

3) 長期的な目標としては、電子データのデータベースをより充実したものにした上で、音曲の異同や歌辞の継承関係からみた中国の伝統芸能・演劇分布地図を作成し、伝統芸能・演劇を総合的に把握するという3段階の研究目標を掲げていた。具体的な作業としては、まず『中国戯曲音楽集成』、『中国曲芸音楽集成』などから中国南方の楽譜データを適宜選んでMIDIファイル化し、音曲分析のプラットフォームとしてデータを蓄積していき、またそれと平行しながら中国大陸や東南アジアで現地調査を実施して映像や文献資料を収集した。そしてこれらの音楽を採譜・MIDIファイル化し、採集したデータの特徴が中国のどの地域の楽譜データと近いかをいくつかの解析プログラムを使って分析を進めていった。

この研究課題に関連して、平成16年度にシンガポール（湯申津・九鯉洞廟）、香港（秀茂坪・齊天大聖廟：金沢大学重点研究経費）、中国江蘇省南通・如皋市などの地点で芸能・演劇の現地調査を実施しているが、特に江蘇省如皋市では継承関係がはっきりせず見分けのつきにくい3タイプの芸能・演劇が隆盛を誇って市下にひしめき合っており、計量的手法で分析するサンプルとして最適と考え、その後も調査を引き続き行っている。本書ではこれらの3タイプの芸能・演劇の特徴と由来、親疎関係や上演環境について報告・考察することとし、付録に今回、調査の過程で実施した上演者や文化行政担当者へのインタビュー記録、撮影記録した各種唱本の目録、またその唱本の中から儀礼に関わりがありこの地域で重要な意味を持つ唱本を選んで、その写真と整理した文字テキストを載せることにした。

以下本論部で述べるように、1)と2)については、実験的な目標をある程度は達成できたのではないかと考えているが、しかし、プロジェクト遂行の過程でいくつかの問題にも直面した。たとえば芸能・演劇の音楽の文献資料については、『中国戯曲音楽集成』、『中国曲芸音楽集成』などに膨大な楽譜が記録されているものの、市以下のレベルで採集地点がきちんと記録されていないため、音曲の異同等からみた場合、現状では非常におおざっぱな伝統芸能・演劇分布地図しか作ることができず、詳細で膨大な地点の言語データを基に漢語方言地図を作っている漢語方言研究のレベルにはまだまだ遠く及ばない。今後の課題としては、多くの現地調査を積み重ね、詳細な音曲と歌辞のデータを蓄積していかなければならないであろう。

最後になったが、本研究の如皋市の現地調査に際しては北京師範大学漢語文化学院副教

授で現金沢大学文学部助教授の朱瑞平先生にひとかたならぬお世話になった。朱先生は如皋市東陳鎮出身で、特に如皋市の上演者とのコンタクトや唱本撮影、上演者のオーラルヒストリーの整理などは朱先生のお手を煩わせたものであり、同氏のご助力がなければ貴重な資料をここまで入手することは不可能であったろう。このほか、現地でインタビューに快く協力して下さった楊斌氏ご夫妻、夏伯銀氏、冒建華氏、陳圓琪氏、お名前をここには記さないが調査に協力していただいたこのほかの上演者や会首の方々、陰ながら調査をサポートして下さった朱先生の御令尊や御令弟の朱瑞忠、朱建華両氏、方榮國氏を初めとするご友人の方々、本研究について貴重なご意見を賜った南通市芸術研究所の曹琳氏にも深甚の謝意を表したい。

また、1990年に南通の童子戯を調査されている恩師田仲一成先生からは今回の調査に関してご教示をいただいたほか、南通童子戯や江南の民間文芸に関する貴重な資料を諸々ご貸与いただいた。シンガポールの福建目連戯調査や香港の潮州劇調査も田仲先生の調査に同行させていただいたものであり、ここに謹んで御礼を申し述べたい。シンガポールでは同行の笠井直美氏（名古屋大学国際開発研究科助教授）、中塚亮氏（名古屋大学文学研究科博士課程3年）にもお世話になった。

データの解析については一度ならず林智氏（金沢大学文学研究科2年）の助力を得、同氏の作成した音曲を解析するプログラム W-Energy を使わせていただいた。音曲データの採譜・電子化については田中譜美（金沢大学文学研究科2年）、シュクル・ラフマン（金沢大学社会環境科学研究科2年）の両氏、唱本の整理については馬晴嘯氏（金沢大学文学研究科1年）から多大な協力を得た。ここにご支援・ご教示を賜った方々のお名前を記し、心より謝意を表する次第である。

2006年3月7日

上田 望 記

越境する伝統芸能—江蘇如皋童子戯の事例研究から

上 田 望

- 一 如皋市の沿革
- 二 如皋市における童子戯現地調査概要
- 三 童子戯の上演環境と儀礼
- 四 上演者と唱本
- 五 童子戯の音楽
- 六 小結

一 如皋市の沿革

我々は3回、如皋市で芸能・演劇に関する調査を行ったが、如皋とはどのような街なのか、簡単にその地理的環境、歴史的変遷と現況を見ておく。

如皋市は長江下流の北岸に位置する歴史的、文化的に由緒ある城市であり、隋代に創建された定慧禅寺や清初の文人冒襄の故居、水絵園など名勝古跡も少なくない。如皋市南端の一部地域は長江に接しており、そこから海にも近く、長江を隔てて南岸にある上海や蘇州、無錫などの大都市へも長距離バスとフェリーを乗り継いで2～3時間でこれらの都市に到達できるなど、アクセスのよい場所と言えるであろう。

産業の面では早くから繊維工業などが発達した南通市に比べ、如皋は盆栽、食品加工業くらいしか主力産業がなく立ち後れていたが、現在は如皋港に開発区を設け企業を誘致するなど、開発に力を入れている。

このほか、社会面では如皋市の長寿の多さと、初中等教育のレベルの高さが特筆に値するであろう。特に教育については中国で最も早く師範学校がこの地に創設されたことからわかるように（1902年如皋師範学校創立）、教育熱心な県として広く知られ、大学進学率は全国でもトップクラスの実績を誇る。

如皋の行政区画の歴史を繙くと、この地が如皋県に昇格してから現在に至るまで、1590年の歴史がある。西周時代、この地は海陽と呼ばれ、春秋時代には郟と改められたが後にまた海陽に戻っている。漢代にはこの地に広陵、海陵2県が置かれていたが、東晋安帝の義熙7年（411）に如皋県が初めて置かれることとなった。『太平寰宇記』に拠れば、県の西北に如皋港があり、その側に如皋村があったことから、如皋の名が付いたようであるが、なぜ「如皋」港、「如皋」村というかについては2説ある。一つはこの地が長江北岸の砂州の上であり、平らで見晴らしのよい土地であったことから、『荀子・大略篇』「其の曠を望めば皋如たり」の言葉よりとって如皋としたという説と、もう一つは、「皋」を沼沢、「如」を進むと解釈し、「沼地を行く」という意味から如皋と名づけられたのだという説がある。南朝宋では海陵郡に属し、南齊もそれを踏襲したが、隋開皇年間には省かれて寧海県に組み込まれ、唐は海陵県の如皋鎮とした。五代南唐の保定10年（952）に至って県

に戻り、泰州に属した。宋は淮南東路に、元では揚州路泰州、明では南直隸揚州府に属し、清に入ると雍正 2 年（1724）に通州が直隸州となり、如皋県はその直轄下に入った。清が減んでも如皋県のままであったが、1914 年から 1927 年の間は蘇常道に区画された。1940 年、如皋県は南北を走る運河を境に東西に如皋と如西の 2 県に分割されたが、1945 年、如西が如皋県、如皋が如東県と改名された。1949 年には蘇北行署区南通専区に属することになり、1952 年には江蘇省南通専区、1970 年には南通地区に属することに改められた。1983 年には南通市の下に組み込まれ、その後 1991 年に県から市に昇格するが、現在も南通市の管轄下にある県級の市である。2004 年の時点で人口は 146 万人、市下の鎮は 23 を数える⁽¹⁾。

二 如皋市における童子戯現地調査概要

この 2 年間に行った調査の概要を記す。特に注目し値する儀礼や演劇・芸能の内容などについては個別にあとで詳しくみていくことにしたい。

第 1 回調査 2005 年 3 月 13 日～3 月 24 日（上田望、朱瑞平）

1-① 【写真 1～3】

時間：2005 年 3 月 15 日 9:35～11:45

場所：通州市西亭鎮亭東（村）4 大隊

上演者：陳永蘭通劇団

上演演目：「陳英賣水」

会首名：4 大隊 12 小隊の曹徳成、周徳昌ほか 7 名（7 戸）

目的：太平会（消災保平安）

備考：午前中は仮設戲台の側にある「大聖仙師」の廟で消災保平安の儀礼が行われたようである（未見）。儀礼と演劇の上演をあわせた費用が 480 元、食事代などを含めると 700 元になるという。このほかにも演劇の上演は数日間にわたって何本もあり、それを各小隊で負担しているが、6 小隊や 9 小隊のように 1 人で負担するところもあれば、8 小隊のように 22 人（戸）で分担しているところもある。なお、西亭鎮は通州市中部の町。

1-② 【写真 4～6】

時間：2005 年 3 月 16 日 13:05～16:30

場所：如皋市東陳鎮湯灣村

上演者：楊斌通劇団

上演演目：「珍珠塔」

会首名：袁文山

目的：袁文山氏の岳父逝去 30 周年祭

備考：午前中には「鳳凰記」が上演されたというが未見。午後はもともとは別の演目を上演する予定だったが、我々調査団に十八番を観せよういということで急遽、「珍珠塔」に変更された。

1-③ 【写真7～9】

時間：2005年3月19日13:00～17:20

場所：如皋市東陳鎮錢凌村4組

上演者：夏伯銀、冒建華

上演演目：「開壇」「張四姐」「金鑄記」

会首名：周榮書

目的：不明

備考：儀礼の部分は未見であるが、夏伯銀氏が「童子」として先に儀礼を執り行っていた筈である。

1-④

時間：2006年3月23日13:30～

場所：如皋市山河村

上演者：夏伯銀、冒建華

上演演目：「金鑄記」

会首名：秦永發

目的：青苗会

備考：無し。

第2回調査 2005年8月27日～8月29日（朱瑞平）

2-① 【写真10～13】

時間：8月27日8:40～11:30

場所：如皋市東陳鎮山河村13組土地廟

N32° 25' 16.5" E120° 37' 28.4"

上演者：夏伯銀、冒建華

上演演目：「九郎官請神」「発表」「送駕」

会首名：本土地廟所轄の村民

目的：土地会

備考：無し。

2-② 【写真14、15】

時間：2005年8月27日13:30～17:00

場所：如皋市東陳鎮山河村20組

上演者：夏伯銀、冒建華

上演演目：「劉全三逼記」「発表」「送駕」

会首名：史家元

目的：玉皇会

備考：無し。

2-③ 【写真 16～18】

時間：2005年8月29日 11:20～17:17

場所：如皋市東陳鎮杭橋村4組

上演者：馬坤（楊斌通劇団）

上演演目：「開壇」「女駙馬」

会首名：王国仁

目的：三回忌

備考：観衆99名。

第3回調査 2006年2月13日～2月18日（上田望、朱瑞平、田中譜美）

3-① 【写真 19、20】

時間：2006年2月14日 8:57～11:35

場所：如皋市如城鎮城西郷何堡村7組17

N32° 22' 47.4" E120° 30' 55.8"

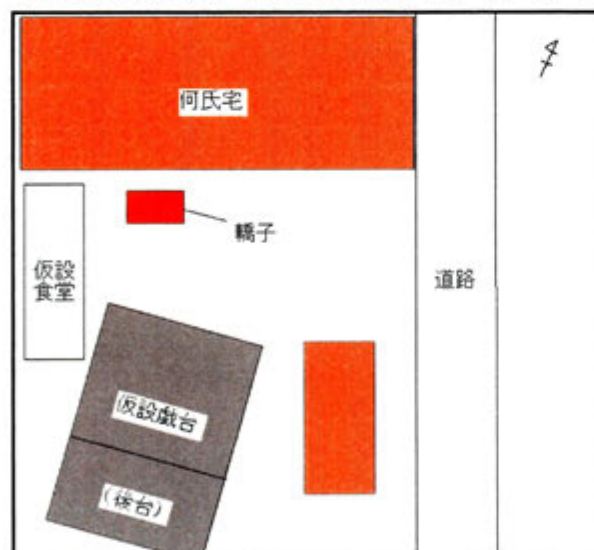
上演者：楊斌通劇団

上演演目：「蔡伯喈」

会首名：何某

目的：女主人の姑（享年99）の死後42日目の回向

備考：回向であるため、仮設戲台の右手前に紙製の「轎子」が置かれていた。これに死者の霊が呼び寄せられると考えられ、49日の回向が済むと燃やす習慣となっている。また「轎子」ではなくただの紙製の「箱子」あるいは「樓房」であることもある。上演中に3度、7名の僧侶が訪れ、堂屋でお経をあげていた（毎回、5～6分程度）。観客は30名程度。



3-② 【写真 21、22】

時間：2006年2月14日 7:15～9:48

場所：如皋市如城鎮大殷村23組

N32° 23' 43.6" E120° 35' 34.4"

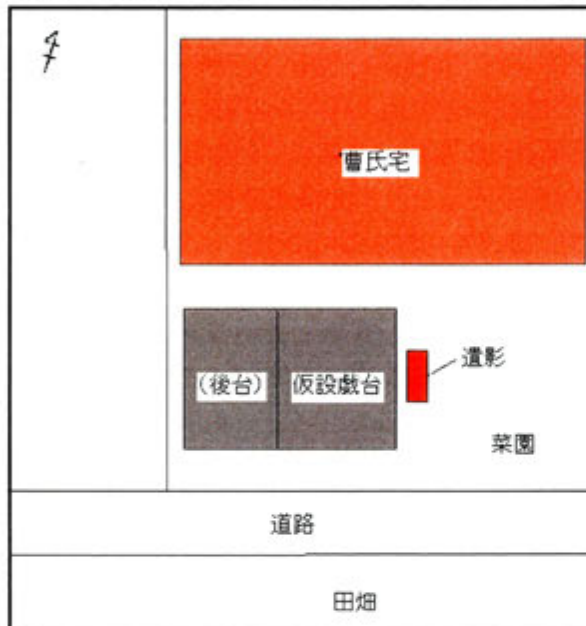
上演者：楊斌通劇団

上演演目：「劉文龍求官」

会首名：曹保付、曹保鳳

目的：父親の十回忌

備考：父親である曹玉龍の 10 回忌のために息子の曹保付と娘の曹保鳳一座を呼んだということで、仮設戲台のすぐ手前に置かれた卓の上には、亡くなった両親の遺影とお供物がそなえられていた。当日はあいにく途中から雨となったが観客は 30 名程度。



3-③ 【写真 23～27】

時間：2006 年 2 月 15 日 12:05～17:05 (13:20～14:50 は休憩)

場所：如皋市東陳鎮洪橋居委会林昌宏家

N32° 24' 19.8" E120° 38' 19.9"

上演者：李徳宗

上演演目：「開壇」ほか童子戯の儀礼のみ

会首名：林昌宏

目的：身内の消災

備考：李徳宗氏が 10:10 に到着。榜文などは全て事前に書き上げられていたが、祭壇など飾り付けの準備に 2 時間近くかかる。会首林昌宏氏に抛れば、息子や息子の嫁が交通事故に遭ったりけがをするなどよくないことが続いたため、占い師にみてもらったところ、3 年続けて童子戯を呼ぶようにと言われ、昨年から李徳宗氏を招き、今回が 2 回目であるとのことだった。謝礼は 1 回、120 元ということである。主たる参加者は林昌宏氏とその夫人、息子の嫁の父親計 3 名、あとは数名の親戚がちょっと立ち寄る程度。なお、身体を刀で傷つけて出血させる神霊降臨の儀礼も行われる筈であったが、会首が反対したため執り行われなかった。

3-④ 【写真 28～29】

時間：2006年2月17日 10:20～18:10

場所：如皋市如城鎮方莊村5組

N32° 25' 20.0" E120° 35' 39.7"

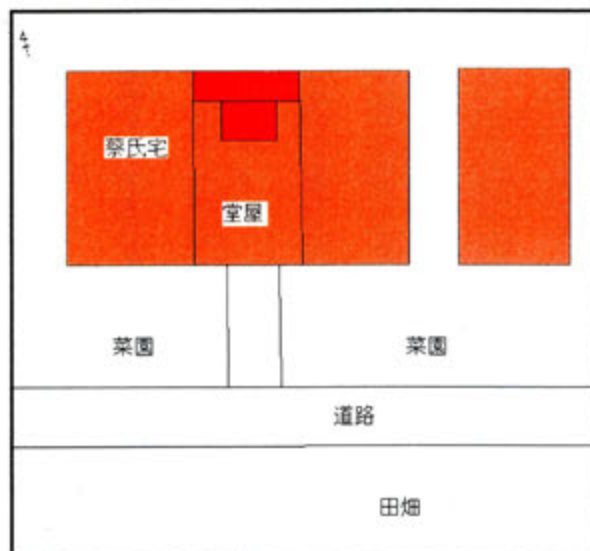
上演者：許逢銀、冒建華

上演演目：童子戲の儀礼及び「魏九郎救父」のみ

会首名：蔡文江

目的：消災

備考：10:20～10:45 開壇・巫壇（請神）の儀礼。その後2kmほど離れた土地廟（N32° 25' 06.0" E120° 35' 12.5"）へ許氏と会首が直接赴き、土地の神々を請迎（この科儀については未見）。14:10～17:00まで冒建華による「魏九郎救父」の演唱。テキストは用いず。夏伯銀氏の抄本と比べながら聴いたが、適宜唱詞を変えたり白を自在に加えながら演唱している。5:05～5:40 送神（許逢銀） 5:50～6:10 送神（許逢銀）



三 童子戲の上演環境と儀礼

そもそも童子戲とはどのようなものなのであろうか。「童子戲」として最初に脚光を浴びたのは如皋童子戲ではなく、隣の南通市の童子戲であり、車錫倫・金鑫・殷儀三氏、沈志冲・呉周翔両氏、曹琳氏、田仲一成氏らの先駆的で詳細な調査・研究がある⁽²⁾。

車氏は、南通県西北部及び如皋、如東県近隣地区の童子活動を調査し、これらの地域に伝わるある種の迷信活動に従事する人々が「童子」と呼ばれ、彼らが執り行う消災降福、驅鬼治病の「太平会」で演唱される歌舞、演劇などの伎芸が民衆に「童子戲」と呼ばれるとし、これはまさに童子、童子戲の定義となるであろう。車氏の研究は、童子の性格と伝承形態、童子戲の起源、そして太平会での個々の儀礼について紹介と分析がなされており、童子戲研究に先鞭を着けたという意味でも大きな意義を持つ⁽³⁾。続いて発表された沈志冲・呉周翔両氏の資料は、南通童子戲の儀式の文句及び「坐堂審替」の脚本を整理、収録

しており、車氏らの研究を資料面で補完する。

曹琳氏にはフィールドワークに基づき南通県の童子の祭祀組織や儀礼、童子の家系（胡氏）と伝承形態について考察した論文があるが、同氏はさらにそれらを発展させ、儀礼の程式や科儀書、南通童子戯のテキスト「十三本半巫書」などをも網羅する著書を出しており、資料的価値も極めて高い。

また田仲一成氏は1989年と1990年の2回、やはり南通で現地調査を実施され、克明に儀礼を記録しその一つ一つの儀礼の意味を道教儀礼や演劇史の文脈から分析、説明されている。そして南通の童子戯を閩南の童乩の要素、紅頭法師の要素を併せもつ巫術儀礼として荆楚文化圏の基層文化の驅邪押煞の儺礼に位置づけ、古い時代には仮面の演出も有していた筈であるとする。また、南通童子の消災会については、単なる驅邪押煞の巫術ではなく、孤魂超度に重点を移した「建醮儀礼」に近いが、道士儀礼のように整った形ではなく、紅頭法師の建醮の段階を反映するものであろうとする見解は、如皋童子戯の性質について考えていく上で示唆に富む。

さて、曹琳氏、田仲氏などの先行研究に基づけば、南通童子戯の上演の場は以下の2つに分かれる。すなわち郷儺の系統に属し、定期的・集団的で規模の大きい「童子做会」と、堂儺の系統に属し個人が消災などの目的で行う「童子上聖」である。この分類は、如皋の童子戯についてもほぼ当てはまると思われるが、田仲氏が1990年に調査されたような3日にわたる大規模なものは如皋北部では殆ど举行されないようである⁽⁴⁾。

この2年間で調査したものの中で、郷儺系に属する童子戯は、前章の調査概要の番号で記せば、1-①の太平会（通州市西亭鎮東村 陳永蘭通劇団）、1-④の青苗会（如皋市東陳鎮山河村 夏伯銀）、②-1の土地会（如皋市東陳鎮山河村 夏伯銀）、②-2玉皇会（如皋市東陳鎮山河村 夏伯銀）の4つであった。このうち夏氏が童子をつとめるものは、夏氏が法冠・法裙すら着けず坐唱するのみであり、祭壇の配置も簡素である（写真13）。掲示される榜文は土地会に限らずだいたい同じ文面のものが用いられている。土地会での榜文を以下に示す。

萬古傳流到如今 人有誠心 佛有感應 敬神之後 順利太平 修設 神壇 奏為 請三天門下
皆洪山堂法司 亘古至今 葷素果品茶糖米美酒 供獻 請上中下天地三界諸神 赴會 祝敬
太平土地神會一堂 家家發財 眾姓會首 神聖保佑 如皋市東陳鎮湯灣村山河村 眾姓會首
公德敬神 江蘇省 如皋市管 居住本方 土地 神界下（有六位姓名 略） 接會眾姓人等 信
士會首 會首姓名 組織 會首姓名 敬神之後 家家發財 做會之後 家家興旺 二〇〇五年農
曆七月二十三日出榜 榜文張掛

儀礼がここまで簡略になっている理由については土地廟の支持基盤が山河村13組に限られ小さいことと、童子が夏氏であることも大きく関係していると思われる。今後、夏氏以外の儀礼を調査する必要がある（1-①の儀礼は未見）。

堂儺系では、1-②（如皋市東陳鎮湯灣村 楊斌通劇団）、1-③（如皋市東陳鎮錢凌村 夏伯銀）、2-③（如皋市東陳鎮杭橋村 楊斌通劇団）、3-①（如皋市如城鎮城西郷 楊斌通劇団）、3-②（如皋市如城鎮大殷村 楊斌通劇団）、3-③（如皋市東陳鎮洪橋 李徳宗）、3-④（如皋市如城鎮方莊村 許逢銀）がこれに相当すると考えられる。

このうち、夏伯銀氏の儀礼は未見であるが、榜文などは土地会のものと同様と殆ど変わらないのでやはりかなり簡略化されているであろう。

楊斌通劇団は4度、その上演を観察しているが、そのうち彼らが童子として儀礼を行ったものは、2-③のみであり、その際は一座の馬坤氏が童子をつとめていた。馬氏は法冠・法裙を着用し、祭壇には三界神の神像（菩薩軸とも呼ばれ、上界の玉皇大帝、中界の東嶽大帝、下界の地藏王）を掛け、十八の菩薩紙（神位）を並べて開壇の儀式を行っている（写真17）。榜文は以下のようである。

啟建榜文神壇一所 奏為 宣古傳流 俯以今據 南瞻部部 江蘇省如皋市 治下 東陳鄉 杭橋村 四組 都圖甲 人氏地名 杭橋村 本坊土地 界下居住 信士會首 入市採辦 金錢紙馬 明燭寶香 全豬一口 浪跳龍魚 鳴雞鳳鴨 茶糖果品 上素下葷 酒禮三牲 巫人奏請 三界之神 三表三帖 三天門下 法鼓三咚 申奏公文 祈保會首 在會人等 人口平安 血財興旺 田禾茂盛 五穀豐登 生意興隆 萬事如意 乙酉年 七月二十五日給勝會一堂 眾姓人等 （有八位姓名 略） 洪山堂 法司巫人 馬坤 榜文張掛示行

楊斌氏はインタビューで、「開壇」などの儀礼を行うかどうかは顧客次第であり、人が亡くなったときには僧侶と共同でやることがあると答えている。まただいたい昔に亡くなった祖先の祭祀や老人の誕生祝いなど慶事の場合は儀礼は普通やらないとしている。

李徳宗氏は、逆に「唱書」はやらないと言っているように、童子として儀礼を執り行う儀礼専門の巫師と言えるであろう。

事実、請神の儀礼のために準備される祭器、神像、対聯の数は南通の太平会に比べれば少ないものの、筆者が今まで見てきた中では圧倒的に多い。壁に張り出される榜文についても正榜、副榜、献榜など5帖もあった（写真24）。また南通のように鶏を殺す「開光」の儀礼はなかったものの、師刀を用いて腕を傷つける憑依の儀礼も行うことができるようである。このほか、南通の童子戯は「孤魂」の神位や「孤牌」、「孤魂堂」を設けるなど、田仲氏が指摘されているように「孤魂超度に重点を移した建醮儀礼」の性格が濃い、今までの調査では如皋の童子戯にはこのような要素は見あたらなかった。

また、李徳宗氏にお願いして彼の帳簿を見せてもらったが、向こう4月までぎっしりとスケジュールが詰まっており、顧客は主に東陳鎮など如皋市北部、東部の近くの鎮の在住者であるが、隣県にも顧客がおり、しかも彼らの多くは林昌宏氏のように何年も彼に依頼しているリピーターであった。これは如皋では童子による儀礼の需要が今なお多いことを如実に示している。

李徳宗氏の師匠は海安市丁所郷陳莊村の田井雲氏であり、如皋童子戯と南通童子戯の関係を考える上でも興味深いので、李氏の儀礼については許逢銀氏とあわせ別稿で論じることにした。

四 上演者と唱本

3回の調査で会うことができた上演者は、夏伯銀氏、冒建華氏、楊斌氏（楊斌通劇団）、

李徳宗氏、許逢銀氏である。

このうち、夏伯銀氏、冒建華氏、楊斌氏の3名には、特に時間を設けていただき、どのように童子戯の儀礼や「唱書」の演唱の仕方を習得したのかなどについて朱瑞平氏を介して詳細なインタビューを行っている（付録「如皋童子戯系列訪談」参照）。

まず上演者の童子戯及び唱書の習得過程であるが、このインタビューに抛れば、こちらが予想していたよりも習得時間が短い。

夏伯銀氏は15才の時に地元では有名な童子、劉文和について学んでいるが、そのあと服飾工場に就職したことから考えてもそんなに長く学んでいたとは考えられず、童子としてのキャリアをスタートさせたのは59才で退職してからである。冒建華氏は、26才からこの世界に入ったということであるが、最初は劉文和に半月、そのあと他の老先生から2ヶ月ちょっと学んだということである。楊斌氏は、自分で「自学」と言っており、通州の劇団の親方にスカウトされて劇団には入ったが、そこには1ヶ月しか在籍しなかったと言っている。これらが全て事実だとすれば、舞台の上演（文戯に限定されるであろう）あるいは唱書だけなら、速成が可能ということかもしれない。夏氏、冒氏、楊氏3名とも80年代から90年代にかけて他の職業からのいわば転職者であり、これは80年代に童子戯には市場があるということで新規参入者が増えたと指摘する陳圓琪氏の発言とも一致する。陳氏が高く評価する如皋九華通劇団座長の楊建平氏も84年に劇団を立ち上げている。

但し、儀礼に関しては南通の童子戯の場合もそうであるが、習得が難しくそれなりの訓練期間が必要なようである⁽⁵⁾。夏伯銀氏の場合、59才の時点で師の劉文和から唱うことは許しが出たが、菩薩を敬う（つまり童子戯の儀礼を行う）ことはだめだと言われたように、師の要求も「唱書」より高いのかもしれない。冒氏も師から学んだのは「敬神」のところだけだと言っている。李徳宗氏は6名の師についたと言っているので、恐らくこの中では最も時間をかけて習得したであろう。

学び方は人によっても異なるようであるが、口伝、本を見て学ぶ、師匠から盗むなどいろいろなやり方がある。舞台上演では唱詞は暗記しなければならないが、座して唱う「唱書」の場合は、上演形態のところ述べてように本を見ながらでもよいので、本で学習するというのも可能なのであろう。また、冒氏のように若い世代は録音したものを聴くという学習方法をとっており、夏氏も師の劉文和の唱を録音したテープを持っている。

演じられるレパートリーであるが、舞台での上演を主とする楊斌氏の場合、舞台化粧をして演じられるものは二十数種類と答えており、実際今までも彼らの出し物で同じものを観たことはなく、レパートリーは少なくない。また、唱書の場合はどれだけ蔵書（抄本など）を持っているかがレパートリーの数に直結すると思われるが、夏氏の場合は数十種を自宅に所蔵し、冒氏も本を見て唱わないにせよ十数種の抄本をカバンに入れて持ち歩いている。

夏、冒氏のレパートリーの中で南通の童子戯「十三本半巫書」と重複する内容のものもあるが、如皋の童子戯には説唐物、楊家将物、乾隆帝物なども多くあり、これらの題材がどこからやってきたのか、どのように成立したのかは今後の調査と研究に待ちたい⁽⁶⁾。

また楊斌通劇団も多くのレパートリーを有することは前に述べたが、南通の「十三本半巫書」とは関わりのない「陳英売水」、「劉文龍」、「蔡伯喈」、「珍珠塔」などが上演される機会が多い。これらの作品は江南では有名で、芝居や芸能で繰り返しリメイクされてい

るものであるが、何れも男女の別離や貞節、苦難の道行きなど構造的に似通ったものばかりである。田仲一成氏は南通の童子戯の祭壇に孟姜女、趙五娘（琵琶記）黄桂香、祝英台、蕭素貞（劉文龍）の5人の烈女の像が作られていたことから「郷民が孤魂烈女を特に重視していたことの反映」とするが⁽⁷⁾、実際に如皋ではその烈女に対応した作品が民衆に好まれ、頻繁に上演されることは江南の基層文化を考える上で大変興味深い⁽⁸⁾。次に、南通の「十三本半巫書」の中から「魏九郎替父請神」（九郎替父、九郎請神、進出朝、出朝などの呼び方もある、以下、南通本）を選び、同じ内容を持つ如皋の「魏九榮出世」と簡単に比較し、どのような点が異なるのか考察する⁽⁹⁾。

南通本に拠れば梗概は以下のようである。

唐の太宗が地獄巡りをした際に、「取経」「進瓜」「陽元勝会」の3つを行うことを約束したが、3つ目の「陽元勝会」の約束を果たさなかったために、閻王は香山五嶽神を使わし唐の後宮に災いを引き起こす。そこで太宗は三界へ誰かを派遣して神々を招き、約束を果たそうとするが臣下は誰も行くと言乗りでない。奸臣李道宗は魏徴を推薦し、浙江金華府蘭溪県東門で曹、李、蕭三夫人と暮らしていた魏徴が召し出されるが、魏徴は老齢を理由に辞退したため太宗の逆鱗に触れ、死罪を言い渡される。魏徴の義兄弟、秦叔宝や程咬金らが取りなしたために、死罪は免れるものの棒で打たれて一生牢へ入れられることとなり、魏徴は血で書いた手紙を家に送り、自分の困境を知らせる。手紙を受け取った蕭夫人は激怒し太宗を恩知らずとものしる。

その頃、魏徴と蕭夫人の間に生まれた第九子、魏九郎（名前は志成で天界の捲童星の生まれ変わりという設定）は天台山の袁先生の学堂で勉強していた。魏徴を救うため玉皇大帝から下界に遣わされた太白金星は一計を案じて九郎の帰郷を促す。帰郷を決意した九郎に袁先生は天書と宝剣を贈り、夫人は金釵を贈る。帰郷の途上で九郎は金星が姿を変えた老人に会い、三日後（三日後という期限は前段では触れられていない）に魏徴は命がなくなると教えられる。途方に暮れる九郎に金星は自分の正体を明かし、鑽天帽、騰雲靴、降龍索の3つの神器を贈る。文字通り飛んで家に帰った九郎は蕭夫人から説明を受け、彼を長安に行かせまいとする母親を振り切り、空を飛んで上京する。朝廷に闖入した九郎は定身の法を使って武士を動けなくし、太宗の天文地理に関する難問に見事全て答え、三界の符官に任じられる。九郎の願いで魏徴は赦免され、原職に復し故郷へ帰る。九郎は龍馬を借りるため、身支度を整えて表を手に東海へと出発する。

大筋は、如皋の夏伯銀抄本（以下、如皋本）の「魏九榮出世」も同じであるが、主な異同は、

1) 登場人物名、地名の違い

如皋本では主人公の名前は魏九榮、南通本では魏志成であり、これについては曹琳氏が校記①で「通州一帶の童子は魏九郎を魏志成と呼び、海安県一帶では魏九榮と呼ぶ」⁽¹⁰⁾と述べている。このほかにも、魏徴の他の8人の息子の名前、学堂の所在地や先生の名前（天台の袁先生ではなく崑山の呂先生）、奸臣の名前（李道宗ではなく王枢密）など細かな違いは多い。

2) エピソードの違い

香山五嶽神が後宮で災いをなしたという話は如皋本にはないが、南通童子戯の儀礼には「斬五嶽」があり、南通本ではこれは欠かせない重要なエピソードと考えられる。また南通本では、10日以内に魏徴の身代わりで誰かが三界に行くという設定に最初からなっておらず、話の筋が通りにくい。また、如皋本では太白金星から水浴びを勧められた九郎が凡体から脱するというエピソードがあるが、これも童子が身を清め、「請神」の儀礼を行う上で重要な意味を持つように思われる。

3) 表現の長短

九郎の人物像であるが、如皋本は九郎と蕭夫人とのやりとりなどが長く、そのやりとりを通じて九郎がいたずら好き、おちゃらけ気味で少し乱暴者風に描かれており、程咬金などのようなトリックスター的なイメージがある。九郎と太宗が天文地理について問答する部分は南通本の方が詳細であり、如皋本は省略もあるため意味が取りづらい。また末尾で、九郎が父魏徴を牢から救い出し、魏徴が再び太宗に拝謁する段があるが、南通本は十数句で簡単に描写するのに対し、如皋本は『千字文』の言葉を組み込んだ唱詞で詳細に描写している。

このように見てくると、南通と如皋では、共通する童子戯の脚本もあるものの、登場人物名など細かい点では異同が少なくない。ただ、ストーリー展開は殆ど同じであることから祖本は共通であり、それが南通系と海安系などに分かれ、如皋北部に限っては海安系の影響が濃いのではないかと考えられる。

五 童子戯の音楽

次に音楽の面から如皋を含む各地の童子戯の関係や、他地域の芸能・演劇の音楽との関連性について考察してみたい。

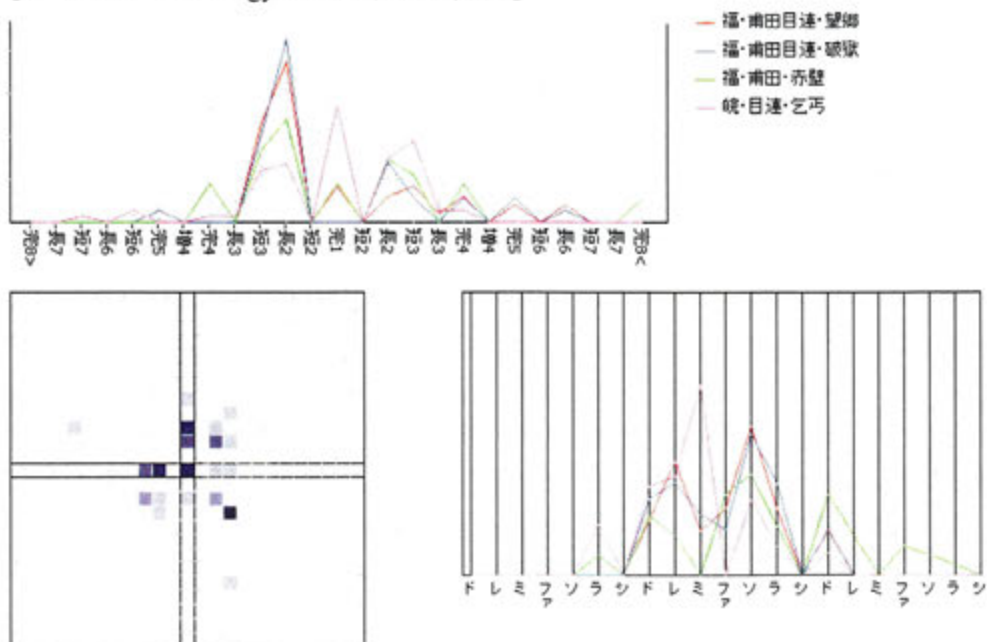
そもそも本研究課題は、芸能・演劇の音楽や歌詞を計量的に統計処理して各地の音楽の関連性や継承関係を可視化し、その結果を芸能・演劇分布地図として投影できないかという着想から来ている。

そのためには何よりもまず音曲を電子化し、比較分析できるだけのサンプルを集めたデータベースを作ることが不可欠であり、『中国戯曲音楽集成』、『中国曲芸音楽集成』などから適宜、演目を選んでその楽譜を入力し、MIDI ファイルを蓄積していった。しかし、これらの楽譜は正確な採集地点に関する情報がなく、おおまかにしか地域を特定できないため、この作業と平行して現地調査によって映像資料を収集し、そこから採譜してやはり MIDI ファイルを作成していった。

これらの MIDI ファイルをどのように分析するかということも非常に大きな問題であるが、これについては金沢大学文学研究科の林智氏に協力を仰ぎ、同氏が開発した音曲を解析するプログラム W-Energy を使わせてもらった。これは、1) 楽曲の中で、2つ及び3つの連続する音の変化移行パターン、2) 楽曲の中での各音の出現頻度、を分析するのに大

変有効なプログラムである (11)。一つサンプルを示す。

【グラフ1 W-Energyによる音曲の分析】



この3つのグラフは、福建甬田の劇団が演じた目連戯から、「望郷台」と「目連破獄」、そして同じ劇団が演じた「赤壁塵兵」、そしてこの劇団とは全く関わりのない安徽の目連戯の音楽の4曲を比較したものである。

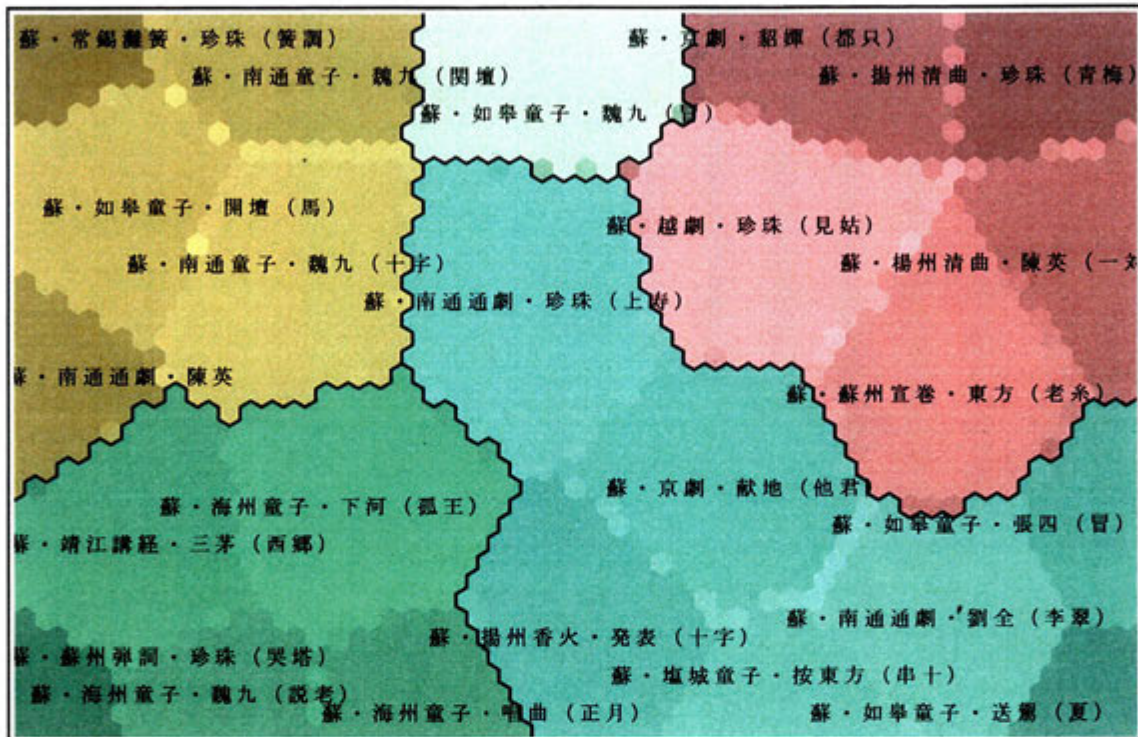
左上のグラフは、一つの曲の中で連続する2音がどのように移行したかを示すグラフである。縦軸は出現頻度、横軸は横軸は音程を示し、1目盛りは半音で完全1度を中心として右側は音の上昇、左側は音の下降を表している。

まず一目瞭然なのは、福建甬田の劇団の音楽は3曲とも似た変化のパターンを示しているのに対し、安徽の目連戯は同じ目連戯とは言え、福建の目連戯とはかなり異なっており、同じ劇団が演奏する「三国志」の音楽の方が2音の移行パターンについてだけ見れば、福建の目連戯にずっと近い。具体的に言うと、安徽の目連戯は、2音が変化しない「完1」でピークが来るのでどちらかと言えば平板な起伏のないメロディーであるが、それ以外の3曲は左の長2にピークが来ているので、長2度下がりの移行パターンが特徴である。

右下のグラフは曲中に出現した各音の頻度を示しているが、安徽の目連戯はミの音を多用するのに対し、福建の目連戯はレとソにピークがあり、明らかに違いがあることがわかる。左下のグラフは連続する3音がどう移行したかを示すもので濃度で頻度を表している。横軸は2音目の移行で右が上昇、左が下降を表し1目盛りが半音である。縦軸は3音目の移行を示し、上が上昇、下が下降を意味する。大きなグラフは4番目の安徽の目連戯の移行パターンであり、その下にあるのが左から福建の目連戯「望郷」、「破獄」、「赤壁塵兵」、安徽の目連戯となっている。3音の変化に注意しても福建の目連戯は2曲とも同じであるが、三国は同じ劇団の演奏でも少し違いが出ている。

数曲程度であればグラフを見て、その特徴や関係性を分析できるが、10曲、20曲となっていくと難しいため、それぞれのグラフの基となった頻度のデータをエクセルに出力し、さらにそれをクラスタリングの理論を応用した「自己組織化マップ」によって、各音楽の親疎関係を可視化してみる⁽¹²⁾。

【マップ1 江蘇省の芸能・演劇音楽】



これは江蘇省内の芸能・演劇の23曲の音曲を上述の1)、2)を指標に解析してみたものである。童子戯を中心に選んだが、童子戯と同じ演目を持つ他の劇種や、京劇なども試案として加えてある。プログラムは全体を4つ乃至5つのクラスタに分けることが適当と判断しており、簡単に言えば、数値から見て似通った音曲が同一のクラスタ(グループ)に属し、また曲と曲との距離が近いほど、関係性も濃いということになる。このマップを見ると、左下のクラスタには海州童子戯の音曲が集中し、左上のクラスタには、「劉全進瓜」を除く南通童子戯の音曲が集まっていることから、それぞれ南通系と海州系は一派をなしていることがわかる。如皋童子戯はいくつものクラスタに散らばってしまっている。冒氏の曲調はかなり特殊であり、採譜しにくかったこととも関係しているかもしれないが、これだけで独立したクラスタになっている。また、楊斌通劇団の馬坤氏の唱は左上の南通童子戯が集まったクラスタに分類されており、インタビューにもあるように彼らの劇団の南通との関わりを示す傍証となるであろう。それ以外の如皋童子戯は右下のクラスタで塩城童子戯、揚州香火などと一緒になっており、如皋童子戯の源流を音曲から考察しようとする場合、南通地区に限定せず江蘇省中部にまで範囲を拡げてデータを蓄積していく必要がある。

【マップ2 中国江南の芸能・演劇音楽】



上記の 23 曲に選択範囲を中国南方にまで拡大して 14 曲を加え、37 曲について解析したのがこのマップである。追加したのは儺戲、目連戲系統の音曲であるが、童子戲とは関係が遠く、左側のクラスタに如皋童子戲を除く江蘇の童子戲が集中する結果となった。このクラスタには他省のものでは安徽省の目連戲しか入っておらず、データを見るとやはり同音が続く傾向や、長2度下がりの移行パターンが目につく。ちなみに同じ目連戲とは言え、各地の目連戲はみなばらばらに分布しており、地域間の継承関係は見出しにくい。そのなかで、福建の目連戲は現地で採集した曲と楽譜になっている曲が近い関係にあり、グラフ1で示したように福建目連戲独自のパターンを持っているようである。

六 小結

現地調査で得た如皋童子戲に関する諸資料を南通童子戲の先行研究に照らし合わせながら、上演環境・儀礼、上演者と唱本、音楽の角度から考察してきた。

儀礼からみた場合、南通の童子戲から比べると如皋の童子戲は呪術的な面が衰退している面は否めないが、南通の童子戲で後から加わったと考えられる孤魂超度の儀礼がないなど、南通とは早い時期に分かれて別のかたちで発展してきたとも考えられる。またこのような儀礼が形を変えて復活し、如皋ではあちこちで行われているということ自体、驚くべきことである。

また上演者、つまり童子や通劇の劇団員については、改革開放後、急速にこの業界に身を投じる者も増えていること、そしてその情勢に対応するために行政（文化局）もさまざま

まな策を講じていることなどがわかる。如皋の童子戯の抄本と南通の抄本との違いについては、間に石印鼓詞などが介在している可能性もあるが⁽¹³⁾、如皋と南通とで共通する祖本からそれぞれが自分たちの上演環境に合わせてテキストを改変してきたことは間違いない。また所謂「十三本半巫書」以外の演目についても、その地域社会における意味とあわせて今後、テキスト分析や伝承形態を考察していく必要がある。

音楽面から見ると、童子戯の音楽は江蘇省内においても独自の一派をなしている一方で、南通、如皋、海州など各地域で伝承される音楽には個性があることがわかった。それぞれの継承関係や伝播ルートなどの解明は現時点では難しいものがあるが、今後、南通地区を越えて正確なデータを集め解析することで、新たな側面が見えてくる可能性はあるであろう。

最後に、以下は今回の調査の感想に近いが、如皋で調査を実施した後、筆者が南通童子戯の研究から事前に得ていた童子戯のイメージは大きく変化した。南通の童子戯は儀礼・演劇など諸々の要素を含む総合芸術（芸能）であるが、如皋の場合、童子戯は極端に言えば儀礼専門、演劇専門、唱書専門の3タイプに分かれてしまっている。これは改革開放後、それぞれの分野で需要が生まれ、その需要に応えるため、供給側も特化していったことが一番の原因であろう（習得期間が短いことも関係している）。

また本論文の中では「如皋童子戯」という言葉を頻繁に用いたが、如皋という行政上の地域の枠組みで考えることについて若干、疑念が残っている。如皋の上演者は南通を初め他の地域の師匠から儀礼、テキスト、音楽などを学ぶ一方で、自身や弟子を含め如皋以外の地域にも活躍の場を求め、また営業活動を展開している。これまでも如皋の童子戯は儀礼、テキスト、音楽それぞれ別個に各地と交流し独自のスタイルを築き上げてきた節があるが、今後はますますジャンルや地域の垣根を超えた交流と融合が進んでいくと予想される。「越境」していく現代中国の伝統文化、大衆文化をどのようにとらえるか、これは21世紀の我々にとって大きな課題となるであろう。（完）

【注】

- (1) 如皋市の沿革については『江蘇省如皋縣志』（清楊受廷他修 馬汝舟他纂 據清嘉慶13年刊本影印本 臺灣成文出版社 1970 『中國方志叢書・華中地方』所収）、『如皋縣志』（江蘇省如皋市地方志編纂委員会編 香港新亞洲出版社有限公司 1995）、『如皋市交通旅游図』（山東地圖出版社 2003年版と2004年版）を参照した。
- (2) 南通童子戯の研究は以下の文献を参考にした。車錫倫・金鑫・殷儀三氏「江蘇南通的童子会和太平会」（『東南文化』総71期、1989 ※この資料は田仲一成氏よりご恵投いただいた）、沈志冲・吳周翔搜集『童子会資料』（『民間文芸季刊』89-3 1989）、曹琳「江海平原上的古儺余風—南通童子祭祀活動概覽—」（『民俗曲芸』第70期、1991）、曹琳「硯教傳人—南通童子胡錫蘋」（『民俗曲芸』第117期 1999）、田仲一成「江蘇省南通県の童子戯」（田仲一成『中国巫系演劇研究』（東京大学出版会、1993）第2章 pp851-944）、曹琳『江蘇省南通市橫港郷北店村胡氏上童子儀式』（施合鄭民俗文化基金会 1995 民俗曲芸叢書所収）、『江蘇省南通市開東郷公園村漢人的免災勝会』（施合鄭民俗文化基金会

- 1996 民俗曲芸叢書所収)、『江蘇南通童子祭祀儀式劇本』(施合鄭民俗文化基金会 2000 民俗曲芸叢書所収)を参照。
- (3) 車氏はその後、江蘇北部や安徽などに跨って見られる「香火神会」という民俗文化活動の中に童子戯を位置づけており、童子戯の誕生と変遷を考える上で興味深い。「江蘇北部的香火神会、神書和“香火戯”(提綱)」(『信仰・教化・娯楽—中国宝巻研究及其他』所収 臺北學生書局 2002)参照。
- (4) 通劇団の団長楊斌氏は、大規模なものは如皋南部で南通に接する地域に多いと述べている。「楊斌訪談紀要之一」参照。
- (5) 注2前掲曹琳論文には老童子胡錫蘋氏がどのように父親から学んだかが詳しく記されている。
- (6) 冒氏は、インタビューの中で祖先を祭る場合には「楊家大祭祖」を唱うなど、上演の目的と場が演目の選択にも関わってくるについて言及しており、「説唐」「楊家将」などは他の芸能・演劇にもよく取り上げられるが、如皋の場合、単なる娯楽と見ない方がよいであろう。
- (7) 注2前掲田仲書 p862 参照。
- (8) 「楊斌訪談紀要之二」で楊氏の夫人は、十数年前、彼らが演じた戯文の内容とある老夫人の生活経歴が同じだったためにその女性が気を失うくらい泣いたことがあったというエピソードを披露している。何の演目かはわからないが、彼らのレパートリーの傾向からして恐らく「珍珠塔」などであろう。如皋市は建築関係の技術者を輩出することでも有名で現在も出稼ぎの人が多く、上述のレパートリーはこの地域の人々の琴線に触れる作品なのかもしれない。
- (9) このテキストは南通童子戯の「十三半巫書」の8番目にあたり、注2前掲曹琳『江蘇南通童子祭祀儀式劇本』には通州市の抄本を校訂したものが収録されている。
- (10) 注2前掲『江蘇南通童子祭祀儀式劇本』p168 参照。
- (11) 田中譜美は「蘇州弾詞流派唱腔「馬調」・「兪調」の特徴と変遷」(金沢大学文学部平成15年度卒業論文)で蘇州評弾の各流派の音楽を分析するのにこの W-Energy を使用し、大きな成果を上げている。
- (12) 今回、使用したプログラム Viscovery® SOMine はクラスタリングの1手法である自己組織化マップ(SOM: Self-Organizing Maps)のコンセプトとアルゴリズムに基づいており、複雑なデータをその類似に基づいて配置し特徴をマップで図示してくれる。
- (13) 大塚秀高氏は南通童子戯の抄本が、民国初期に上海の椿蔭書莊(局)などから石印鼓詞として出版されていた事実を明らかにしている。大塚秀高「中央研究院歴史語言研究所傅斯年圖書館所蔵の「石印鼓詞」について—「石印鼓詞」と「童子戯」(『饜饕』第8号 2000)参照。



写真1 陳英売水



写真2 亭東村大聖仙師廟



写真3 包場戸の名單



写真4 楊斌氏



写真5 珍珠塔



写真6 仮設舞台の撤収



写真7 夏伯銀氏



写真8 金鑄記



写真9 甘建華氏



写真 10 山河村土地廟



写真 11 土地神



写真 12 榜文



写真 13 土地会



写真 14 玉皇大帝



写真 15 玉皇会



写真 16 開壇の準備



写真 17 開壇



写真 18 女駙馬



写真 19 轎子と仮設舞台



写真 20 読経



写真 21 遺影



写真 22 劉文龍



写真 23 李德宗氏



写真 24 榜文

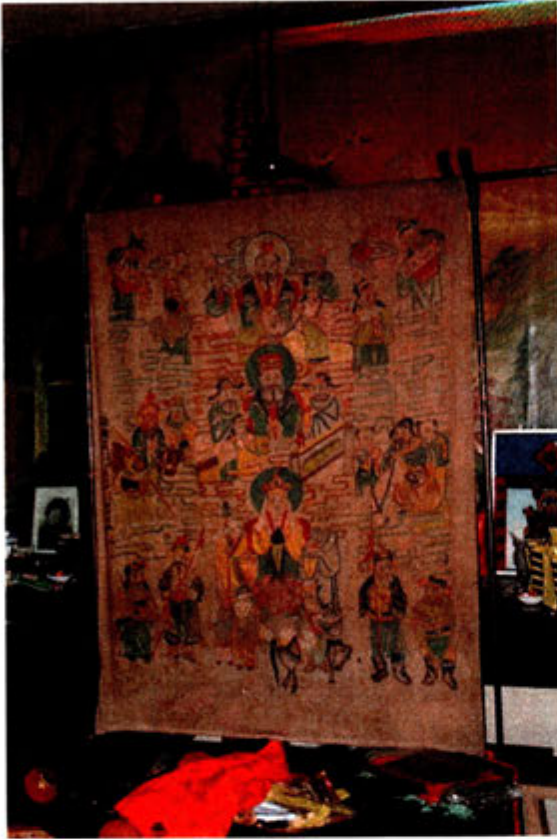


写真 25 菩薩軸 (三界神)

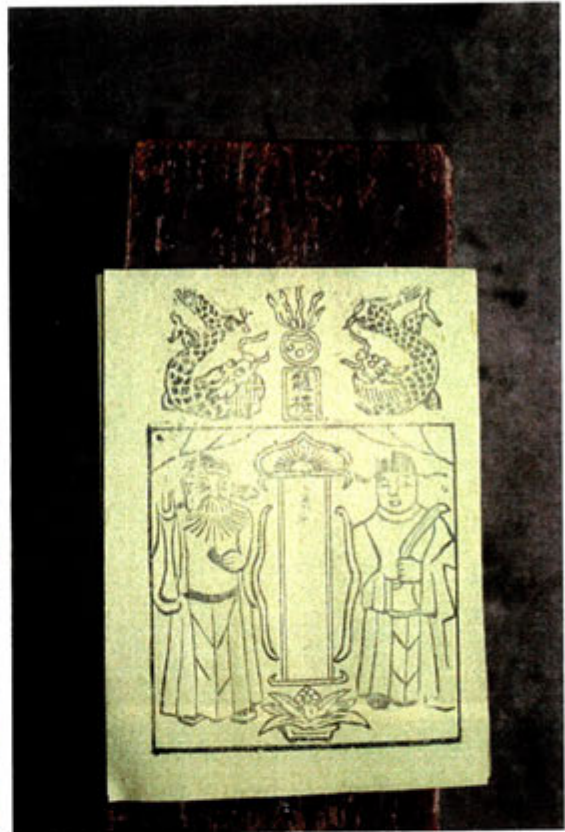


写真 26 龍樓黃元



写真 27 天書



写真 28 許逢銀氏



写真 29 祭壇



写真 30 方莊村土地廟

如皋童子戯系列訪談

凡例

- 1) 本記録は、2005年3月と8月、2006年2月の計3回にわたって、朱瑞平氏が如皋市在住の上演者夏伯銀氏、冒建華氏、楊斌氏及び如皋市文化局の陳圓琪氏にインタビューした内容を文字化し整理したものである。
- 2) インタビューはすべて如皋方言で行われており、わかりにくい方言語彙は固有名詞を別として普通話に改められている。
- 3) 上田が用意した質問事項は、①どのように童子戯の儀礼や「唱書」の演唱の仕方を習得したのか、②どのようなレパートリーを上演(演唱)できるか、③どのような場・機会に上演を行うか、④童子戯と祭祀儀礼の関わり、⑤童子戯と他の演劇との関係、⑥「唱書」の節回しの特徴、などである。また、如皋市文化局の陳圓琪氏には行政の立場からどのように童子戯を含む芸能・演劇を指導し管理してきたのかについて自由に語っていただいた。
- 4) インタビュー自体はどれも長時間にわたるものであるが、質問事項及び童子戯と関わりのない部分については割愛した。

上田 望 記

如皋童子戏系列访谈之一

夏伯银访谈纪要

时间：2005年3月22日晚

地点：江苏省如皋市东陈镇山河村夏伯银家

采访人：朱瑞平

被采访人：夏伯银¹

在场：朱弟瑞忠、夏妻

整理人：朱瑞平

朱：你从什么时候开始唱书？

夏：59岁，退休（开始）。原来15岁的时候跟刘文和学了一年多。后来不做，因为做童子戏是低品。

朱：刘文和也是唱的童子戏？

夏：刘文和唱的就是本地戏（童子戏）。在本地超过他的人是没有的。我也到如皋去考过，刘文和叫我去的。

朱：这是什么时候？

夏：59岁的时候。第一次我不曾敢去考。全如皋49个公社（的童子戏艺人）全都去考，刘文和考的头等。刘文和让孙子回来叫我去考，他说我的唱腔还马马虎虎，现在可以做了，但不许敬菩萨，就是唱本地童子戏。

童子戏一共三个品种：有穿龙袍唱的，在舞台上拉幕，表演谁就是什么样的一个人出来（指完全化妆）；有演唱的，比如5个人上台去演唱。我们这样的属于清唱（指表演者穿常服，不化妆，坐着唱甚至看着书唱），两个人三个人都可以做。这是如皋本地的清唱。

演唱有三个品种（意指流派？地方名家？）：顾瞎子，叫顾鉴（音），杨建平，宿汝根（音）。我在如皋新窑（如皋地名）人民剧场得过奖的嘛，我还有演员证，还有个牌儿（指演出证）挂在这里，在房间里。

朱：等一会儿我看一看。

¹ 夏伯银已经七十多岁，听力不很好。

夏妻插话：得的奖挂在他房间里。

夏：在白蒲后面的新窑人民剧场（演出），大概有 1500 多人看会（按：如皋方言把童子戏表演叫“做会”），卖一块五角钱一张票，钱属于剧场得的，（文化）局长都参加。（有很多当时领导及地方名流参加）。在表演当中，张银泰（音），他是个老同志，唱得也是不错的，他在台上时有点怯场了，打莲花落没有打起来（指忘词或没有现编出词来）。

那么我这个班（指表演的组合）有花园（如皋地名）的小女孩，有营房（如皋地名）的刘国美，但是我在其中，我见识得多，我不怕。另外要望空（指不看唱本）唱半个小时。那几个孩子担心，但我在锣鼓的伴奏下唱了 40 分钟。大家都鼓掌。想不到到了第六天，发奖，总共只有六个奖，（获奖的）有顾瞎子、杨建平、宿汝根，包括我，别的不记得是谁了。50 块钱的奖金，我说钱我不要了，孩子们拿去。我把奖状从白蒲（如皋地名）背回家，我心里非常满意。别说 50 块，拿 500 块向我买一个奖状也买不到的。

这是如皋的叫童子戏。童子戏是属于南通。南通的有个叫陈建吧，是一个“头家”（意指最有名的，或班头），这就是南通的通剧——他们唱的。

本地清唱的这个戏我出世以前就唱，那时候刘文和的姐姐叫段家四儿，刘文和的外孙叫仲明高，他那个时候唱唐僧取经，蛮漂亮的。

朱：刘文和这个人已经故去了？

夏：故去了。84 岁。已经故去 6 年。

朱：你当初是怎么学的？是学几部戏吗？

夏：也是唱这个戏，就是清唱。

朱：刘文和也是清唱？

夏：也是清唱。他是第一名，整个如皋没有人比得上他。后来年纪大了，还带着两个女孩儿（指徒弟），一个是王琴，柴湾（如皋地名）的，一个是汤湾（如皋地名）后面王有贵家的（女儿）。那时候我还没有做会，我在东陈服装厂（工作）。我那一次去看，两个女孩要他唱，他唱了一个“孱头儿”（指正戏之前的开场唱段）。刘文和的“孱头儿”是这么唱的——他说：“好的啊小伙（按：如皋方言用作对孩子的爱称）哎，我年纪大了”——我也在那里看会，就在夏龙美家这里，他唱的“孱头儿”是这样的：

我上得台来何难念噢

我看见蚂蚱菩萨把个嘴来尖（指撅嘴）

我问他蚂蚱嘴尖着做什的（按：如皋方言指，做什么）

——我元气不足啊就不能念

这个蚂蚱菩萨是个尖嘴。孩子们听到他这样的话，说：“爹爹（按：方言指爷爷）你到一边去吧，让我徕（唱）。”然后是孩子们唱。

还有一个“孺头儿”，他是把眼泪唱下来的。他这样：“哎——同胞们啊！刘文和年纪老了啊，我来念个孺头儿你听一下啊。

（我徕）一寸光阴一寸金（噢）

寸金难买寸光阴

有时一日光阴落

要找光阴没处寻

这就是刘文和的腔。他谁也比不上，是第一名，唱得好。

那么别的有的穿龙袍，唱的通剧，有的唱的黄梅戏。在戏班子里还是通剧好听。

朱：你 59 岁退休以后是又跟他学了一段，还是直接去唱的？

夏：我也跟他学了一部分。

夏妻插话：退休以后就一直做这个，刘文和也和他一起（搭班子）去做。

夏：我们一起去，在邓元（如皋地名），204 国道。别人听我的唱腔，就像刘文和——“我徕要找光阴就没处寻”，他这一句把眼泪唱下来的。

朱：你们——包括刘文和——唱这种书全部用如皋话？

夏：全部如皋话。这是如皋的本地戏。要超过刘的是没有。

朱：你们平时一起搭班子是几个人？

（夏之次子进房间来打招呼）

夏：一个人唱的比较，是清唱的，也有两个人，最多三个人。在我手里已经六个女孩子走了。营房的洪小燕现在是团长，（朱：自己拉了个班子。）她唱的通剧。王宝银嫁给人家做媳妇，她也在唱。吉小梅也在外面唱。刘文和的侄女叫六美，嫁到如东（县）去了，也在做，她们都在做。

夏妻插话：都和我家老头一起做过的。

夏：和我做的这些女孩还是不错的，呱呱叫的。

朱：像我们这里一般是人家里做什么事情的时候请你去唱会？

夏妻插话：（死了的人）过周年（忌日周年纪念）也请人唱会，唱戏。丧事——

夏：做太平会。

朱：（前天）在五大队唱的是太平会？

夏：青苗会。单独的人家里请了做，唱一本书，属于太平会。青苗会是十来户人家合起来的。青苗就是土地胜会。太平会请三界（神），青苗会也请三界——天上是玉皇，民间的是东岳菩萨，最底下是地藏王，地藏王就是幽冥教主。做会只有两个品种，一个是清唱，一个是演唱。演唱的时候是三四五人，爬在高台上演唱。（朱：那要穿衣服？）嗯，叫演唱。

朱：演唱穿衣服不？

夏：不穿（戏服）。

朱：有没有动作？

夏：拉幕就和戏园子一样。上海的四个大舞台都是拉幕的，现在的南通通剧班子也是拉幕唱的。谁演谁出来了就是谁。（以下一大段谈《沉香救母》的具体剧情去了，从略。）我这里还有一个刘文和的磁带。

朱：我听听看。

夏：（拿录音机，找磁带。）

朱：你们平时唱得比较多的是哪几本书？

夏：现在经常唱的是《九郎官出世》、《借马》、《借鞍》、《借鞭》、《游十八关》。

朱：有没有唱过《三国》的戏？

夏：没有。只有《天门阵》、《罗通扫北》这些书。

朱：你们刚开始学的时候都是照书唱？

夏：是的。

朱：书都是过去的老书？

夏：我的都是照过去老书抄的书。

（插话是关于磁带不能播放的原因）

夏：乾隆皇帝，关东、关西。下南唐的那些书现在不怎么唱了。一下南唐高金宝，二下南唐刘金定，三下南唐杨七郎，四下南唐混战大杀。那些书现在不唱了。

朱：像这些书很长时间不唱是不是也会忘记？

夏：也忘。我们是要照书唱，不照书弄不起来。只有刘文和他不要看书，其他大多数都要照书唱。现在有些书不怎么唱了，现在听书的人少了。先前的时候一班年纪大的人就喜欢听这些书。罗通扫北啊，降妖啊，刘状元拿葵花扫帚星啊……（以下大段谈罗通故事的具体情节，罗通娶妻番邦事，从略。）

朱：你平时经常说的书有几本？

夏：书我有很多，有几十本。

朱：我看看你的书。

（进卧室看奖状、照片等）

夏：我在（照片上的）最北边，穿黑衣服。

夏：（搬出一个木箱子，里面全是唱本，大约有三四十种。）

夏妻插话：都是老书。

夏：有些也不是我抄的，是请人抄的。请表叔季林杯（音）抄的。

朱：有没有刻的？

夏：没有。

朱：刘文和有没有书？

夏：他没有书。

朱：你们唱的书有七字句，也有十字句？

夏：是的。

朱：有没有别的（句式）？

夏：没有。

朱：十字的是三——三——四？

夏：是的。（读出一些十字句做例子）

朱：怎么唱的？

夏：（示范唱十字句）

朱：七字句的呢？四——三断？

夏：（示范）就这么唱法。

朱：像这个《金镯记》唱完要多长时间？

夏：两三个小时。唱书不一定，三个小时四个小时都可以，主要看敲锣的慢与快（长与短）。

朱：你和别人的唱腔里有没有差别？

夏：有啊！各唱各的。不同。

朱：这种不同是因为师傅不同，还是自己创的？

夏：自己唱的不同。你说通剧也有的唱得不好听，也有的唱得好听。

（以下一段闲谈，从略。）

朱：这些书都是多年以前抄的？

夏：都是好多年前的事情了。

朱：明天几点开始？你们一般几点钟开始？

夏：上午不晓得唱不唱。他们家唱两本书。这些书现在的孩子都怕唱，太长了，字也小。

（以下一段一起看书，闲谈，从略。）

朱：抄这样一本书要几天？

夏：三天。

夏妻插话：三天还要再加几个晚上。油瓶倒了也不扶。

夏：（为抄书）吃得苦很大。

（以下一起翻看抄的书，夏读唐僧取经的书文，从略。）

如皋童子戏系列访谈之二

冒建华访谈纪要（之一）

时间：2005年3月23日下午

地点：江苏省如皋市东陈镇山河村秦永发（当天会首）家门前

采访人：朱瑞平

被采访人：冒建华（女）

整理人：朱瑞平

朱：你叫什么？

冒：我叫冒建华。

朱：你今年多大？

冒：我今年35周岁。

朱：你从什么时候开始学唱童子戏？

冒：从26岁。

朱：最早跟谁学？

冒：跟刘文和老先生。

朱：噢！你也是跟刘文和学的。你怎么想学这个东西的？

冒：我当时从单位回来，一时没有工作。我看到其他一部分人在进行这项文艺活动，我感觉到中老年群众有一部分喜欢听南通地区的通剧，我就学了。而且我小时候也喜欢唱，喜欢文艺活动。

朱：你跟刘文和学了多长时间？

冒：跟刘文和学了半个多月，然后又跟别的老先生学了两个多月。

朱：他们教的时候主要教什么？是教唱腔还是别的什么？

冒：我只是跟他们学了敬神的过程——敬天地三界的菩萨——怎么敬法，就是“开坛”。我们要先开坛，开坛完了就唱书，唱书完了再送表——送神。

朱：在每个人家都是这个程序？都开坛？

冒：开坛就是请驾，请菩萨到会场里来（接受礼敬）。唱完了再发三道表，到天界、阳界、幽冥地界。我们唱会整个过程就是这样。

朱：你的唱是跟谁学的？

冒：跟磨头（如皋地名）的师傅后面学的。

朱：是正式拜师还是搭在他们的班子里学？

冒：跟在师傅后面走，在实际表演中学。开始听，然后有感觉就自己上去唱一段。如果观众能够接受你，就可以继续唱下去。

朱：刚开始是照书唱？

冒：照书唱。师傅有时候也照书唱。

朱：照书唱也允许？

冒：也允许，但是你要唱出自己的感情出来。唱出书中的人物情节、悲剧喜剧的感情出来，你要全身心投入进去，要根据书中的人物和他的经历，喜和悲都能唱出来。如果悲哀的地方你能流泪了，就说明你唱到家了。如果你唱的观众没有什么感觉，他就不会再听你唱了。

朱：你觉得你们的唱腔方面不太复杂是吧？

冒：不太复杂。但是每个人都有自己的特点。

朱：每个人的特点是根据自己的声音？根据你师傅的特点？还是根据你自己的什么？你觉得每个唱腔的音乐风格和什么最有关系？

冒：每个人唱的音乐的风格跟他自己对书文的理解、对师傅唱得好的地方的感受，多方面的（都有关系）。

朱：基本上没有人一样，即使唱同一本书，每个人都不太一样？

冒：有相似的地方。基本上每个人都有自己对书文的感受。每个人的生活经历不同，他对书中人物的遭遇也有不同的感受，最后唱出来的感觉也不同。观众能坐在这里听你唱，觉得你唱得精彩——有时候精彩也不等于你的音质好——你就能感动他——感情投进去了。

朱：昨天我听说刘文和唱几句就能把自己的眼泪唱下来，你有没有这样的经历？

冒：我也有。不但我自己能够感动得眼泪下来，别人的眼泪也下来。但是有的书文可以，有的不能。

朱：现在一般人家喜欢点的是哪几本书？其实有时候主家不是很懂的。由你们选择的话，你们一般会帮他们选什么书？

冒：我们根据他做的什么事（为什么做这个会），帮他选择书文。

朱：这里是分类的？

冒：就是说今天做的喜事，比如说有人过生日啦，平时求家人一年的平安啦，大家凑钱（做会）求风调雨顺啊，五谷丰收啊，保佑全年收成好啊，家家都发财啊，我们就唱喜庆的书，到最后结果好的书（指大团圆结局的书）。

朱：那些结果不太好的悲剧什么时候唱呢？

冒：悲剧一般不是一个人家做的，是大家凑钱合做的。也根据听书人的喜爱，他们如果要听一个悲剧，比较苦的，能打动人心的，我们就唱。还有像人家有人去世了，表示纪念一下，可以选这样的书文。比如《孟姜女送寒衣》啦，《秦秀梅吊孝》啦，这些都是属于纪念性质的书文。还有《杨家大祭祖》、《小祭祖》啊，都是纪念祖宗的，表示对祖宗的一片哀思之情。

朱：这么多年你从头到尾唱过的书（全本书）大概有多少种？十年间唱过多少种？

冒：四五十本书。

朱：现在大概每年总共要唱多少本？像今天可能是两本，明天可能是一本。一场有些是一本，有些

是两本，一年里大概要唱多少本？

冒：最多三百多吧。因为太多嗓子也吃不消。

朱：观众一般人数有多少？平均人数？

冒：最多的时候几百人也有的，前几年。最近少了。人们的生活水平提高了，有电视了，有冲击。这些喜爱古书文的人有些去世了，年轻的一代喜欢听流行歌曲什么的，他们不懂书文里也有精彩的部分，没有关注书文里面的东西。其实这些书文和黄梅戏、京剧的书文都是通的，它是七个字、十个字，是有规律的。

朱：根据你的了解，整个如皋市大概有多少人在做这个行业？

冒：可能有几千个人。²

朱：几千个人？有这么多？

冒：有有有。

朱：东陈（镇）有多少？

冒：有七八个。

朱：我先问到这里。你还有别的什么要给我介绍的？——关于你们的演出，关于通剧。

冒：我有。这句话我一直很想讲。在你来采访以前，我就想，为什么我们通剧没有像东北二人转一样走出我们通州（指南通），让全国人都知道？我就想过这样的问题。如果有媒体能让通剧走出通州，就是一种很大的精神安慰。

朱：我觉得你想得比较远。通剧流行范围小，不像二人转，在整个东北地区都有。另外，在赵本山以前，也很少外地人知道二人转。一个地方剧种要想走向全国，一定要有天才演员的出现。另外（童子戏）唱本问题也比较多，要走向全国，属于旧时代的不合时宜的东西要改。所以要走想全国，剧本要改编，要有新剧本；演员要提高表演素质，才能吸引比较多的观众。作为普通演员，你能意识到这些问题，很了不起。大家如果都有你这样的意识，能努力，可以说能够在未来的地方戏里有一席之地。（以下谈通剧剧本的存在问题，从略。）

² 据初步估计，这个数字应该是三五百人。

冒：（以下谈莲花落的创作问题，从略。）

如皋童子戏系列访谈之三

冒建华访谈纪要（之二）

时间：2005年8月27日下午

地点：江苏省如皋市东陈镇山河村史加元（当日会首）家门前

采访人：朱瑞平

被采访人：冒建华

整理人：朱瑞平

（采访开始前给被采访者一份采访提纲。以下问题部分见于提纲。）

朱：请谈谈你学习唱书的经历。

冒：关于学习唱书的经历。为学习唱书的基本技术，大概要两个多月。以后要经过自己的努力，自己磨练，在实践中学习人家的长处，取长补短，加上自己的特点。

朱：你具体是怎么学的？

冒：也有跟老师学的，也有听磁带。

开始学习，主要是熟悉书中的内容，还有古书中的一些文言词，不懂的要理解。不理解就唱不出感情来。

朱：你有没有徒弟？

冒：现在没有。现在没有人学。现在年轻人喜欢流行音乐，对过去的文化艺术没有兴趣。现在的时间也紧张。现在没有人想做徒弟。但我想让它传下去。我想让我以后的子孙了解我唱书的经过，了解书文中主要的地方。我唱的这些书都要保存下来。

朱：你们唱的时候要严格按照唱本吗？

冒：对唱本的处理，如果是清唱的话，是一个人唱，比较随便，可以改词。如果是表演唱，是穿花袍的表演，就不能随便改动书中的词，也不允许罗嗦。

朱：现在你能唱多好种书？

冒：现在能唱的书文，像我高中毕业，基本上有书就可以唱。几十本，上百本，都可以的。

朱：如果是一本新书，唱腔怎么决定？

冒：根据书中的内容。

朱：唱腔有没有基本固定的唱腔？

冒：有。

朱：有基本的唱腔，再根据书文的内容发挥。包括里面增加的书文以外的内容，比如解释性的话？

冒：根据内容增加相同感情色彩的词。表情、语言都要体现出（与书文内容一致的地方）。唱到喜悦的地方就是喜悦的腔调，唱到苦的地方就不能把苦的腔调放弃，要有悲腔。有悲腔，有平腔，还有行路调——表示在路上，在行程中的腔调，还有叙事的调法——叙事调比较流畅的，很快就唱过去了。苦腔就要慢慢地唱，一个字可以婉转唱几次，起伏比较大。

朱：噢。你继续下面的问题。不好回答的问题你跳过去没有关系。

（什么时候表演？）

冒：表演的时间。像我们唱书大多数是为人家敬神而唱书，比如人家过生日，建了新房庆祝——“上圆”（落成），可以做这样的活动。

朱：如果是过生日、建房子上圆（指房屋建成后的落成典礼），也有开坛请神和发表送驾？

冒：嗯。这是个人家里做的活动。也有集体做的，为某一个菩萨做的，比如观音菩萨，二月十九是观音菩萨特殊的生日，六月十九是观音菩萨出家修行的生日（纪念日），九月十九他修行成了正果。为了纪念他可以请我们去做。有的是（祈求）保佑一方太平的，五谷丰收，风调雨顺，叫青苗胜会。还有龙王胜会。有人要出门打工，希望全家太平，风调雨顺，做太平会，财源会，财源广进。

朱：做这些会，会的名目不一样，但是程序是一样的？

冒：也有不一样的。

朱：包括早晨的开坛，和后来的——

冒：做不同的会，开坛的词不一样。

朱：那是不是有一个基本的套路？

冒：比如过生日，开坛的词就是“八仙过海”的词。

朱：开坛的词是有现成的书还是现场编？

冒：也不是自己编的，也不是书，是一代一代传下来的。

朱：口传的？

冒：嗯。老师傅传下来的。必须是这个程序。如果你请（神的词）的跟别人不一样的话，别人就会说你今天的会做得不好。

朱：发表和送驾（的词）呢？

冒：也是老师傅传的。有些会程序比这个还要复杂。

朱：现在我才把程序基本上搞清楚了。

冒：还有“神”——请神以后要敬酒，而且念的词很长，要念一个多小时。

朱：那也是口传的？没有书？

冒：是的。上神的词都是很押韵的，而且要郑重其事地把酒托着送到会首的手中——用神刀，酒杯放在神刀上。然后去神堂门口。

朱：噢，真复杂。

冒：你只是听到的做会的一部分。

朱：我听到的可能是比较简单的，是吗？

冒：嗯。唱书与祭祀活动也可以分开。

朱：其实现在通剧就全分开了？

冒：通剧也有要敬神的——如果人家请了要敬神，就得敬神。

朱：通剧的敬神也是由——（演员来进行？）

冒：基本上和我们是一样的，敬神的程序是一样的。

朱：由表演者来敬神？

冒：嗯。唱书和祭祀活动基本上不分。有时候也分。有时候人家不需要敬神，比如人家是祭祖的，也可以唱这些书（而不祭神）。比如说是过生日，时间很紧张的话，没有时间敬神，直接唱书也可以。但多数是敬神。像家中有长辈去世了，过“五七”，“六七”，一年，二年，周年纪念，是敬祖宗的，就不需要敬神，直接唱书。但唱书的内容多数是苦的（悲剧），悲伤的，唱《孟姜女送寒衣》啊，《秦秀梅吊孝》啊，《陈世美不认前妻》啊。但是把长辈或祖宗的牌位、照片放在那里唱。

现在我们基本是以敬神为主。那样的活动（部分祭祀及周年纪念）请歌舞团比较多。

冒：（下一个问题是）“举行祭祀活动的主要目的”。

朱：这个我已经清楚了，刚才说分类的时候已经说了。

冒：就是为了保风调雨顺，保财源广进。

（下一个问题是）“一般祭祀活动什么时候举行”。除了菩萨的生日，是特殊的，需要特殊的日子举行以外，其他随人家家里选择，任何日子都可以。

朱：下一个问题。

冒：“唱词说词从何而来”。

朱：我已经清楚了，是书上的，没有书的就是口传的。

冒：（现在）没有书的也是根据原来书上传下来的。现在一部分人编了些新书，根据生活中的题材、社会现象编了些新书。

朱：编新书的这些人都是你们这些表演者？没有专门编的人吧？就是只编不表演的？

冒：没有。只编不唱的没有。因为他不懂这中间的规律。（那些编者）毕竟唱了这么多年，熟悉书中的韵律。编这些书的话，基本上要押韵，要符合它的规律，七字，十字，要押韵。不能太枯燥，要用一些优美的文言词。

朱：下一个问题是什么？

冒：下一个问题，“与其他剧种的关系，受到的影响”。也有关系，受到影响的。

朱：受哪些影响？受什么东西的影响？

冒：比如说有时候觉得我们唱的这个剧种有些地方要吸收人家的东西，有时候为了让观众听了不厌烦，就加点的别的剧种的唱腔。

朱：上一次在哪里你唱那个——

冒：像最后唱那个“此书就到这里止”，就有说唱结合起来的。

朱：上一次我听你唱段里好象有黄梅戏的东西。

冒：是，也唱了一两句。但是多数人，他喜欢听通剧的，还不喜欢夹着黄梅戏在里面。通剧就是通剧，你为什么要加黄梅戏进去呢？我加一两句，人家不会反感。加多了，就有问题了。

朱：如果是受到别的影响，你觉得最主要是受什么剧的影响？黄梅戏？越剧？锡剧？

冒：也有些影响。但真正喜欢通剧的人叫你不要带别的，他要听原汁原味的。他说那是人家的剧种，你为什么要带进来呢？

朱：你们肯定是没有道士参加的？

冒：没有没有。我们这个就属于道教。

朱：属于道家，但从来没有道士参加？

冒：嗯。

朱：你们唱哪一本书，都是由主家决定？

冒：由主家，也由我们——共同协商。比如主家点了一本书，你没有，你也要唱（别的），结合你唱的范围。

朱：你唱得最多的是哪几本书？

冒：我唱得最多的也可以说是我们所有的唱书的人唱得最多的。

朱：有哪几种？

冒：《张四姐》。因为书用有个摇钱树，大家比较喜爱——都希望发财。

朱：还有别的哪几本书呢？

冒：还有《沉香救母》，行孝道的，教育下一代的。

朱：比如让你选五本最常见的书，是哪几种？选十种的话再加哪几种？

冒：《张四姐》、《沉香救母》、《袁樵摆渡》。《袁樵摆渡》是天上的张三姐下凡。

朱：还有呢？

冒：《刘全进瓜》。这也是苦书，比较典型的。王婆三次挑拨，刘全三次逼打妻子，社会上有这样的（现象）——这是劝人家家庭要和睦。

朱：好，谢谢。

冒：还有《陈子春》，是唐僧的父亲。（这个书也不错）。说怎么把唐僧生下来的。他生下来，父母就散掉了，用木匣子把他送下水。

朱：噢！好，谢谢你，大致搞清楚了。

（一起看冒建华带来的几种唱本。）

冒：这都是敬神的书。

如皋童子戏系列访谈之四

杨斌访谈纪要（之一）

时间：2005年8月29日上午

地点：江苏省如皋市东陈镇杭桥村王国仁（当日主家）家中

采访人：朱瑞平

被采访人：杨斌

整理人：朱瑞平

（主人母亲逝世三周年祭。）

（杨彬及其搭档一起一边做请神仪式的准备工作，一边接收采访。）

朱：杨老板，你们每次表演之前是不是都有敬神仪式？

杨：不。这是要根据人家府上（的意见）。今天是属于祭祀家里死了的人，有些人家就需要（敬神仪式），和做和尚（的事）一起做。

朱：噢，是这样。是什么情况下没有接神的仪式？

杨：比如说人家只是老事（指一般对已经故去很久的祖上的祭祀），或者是遇上主家祝寿，就没有这个仪式。

朱：噢，这样。

杨：我们唱这个戏，学生考取了（大学），可以；贺寿，都可以。

朱：喜庆，属于喜事，一般都不需要请神？

杨：是的，不需要。（今天做的）这个沾一点迷信的色彩。

朱：这个现在允许的。

杨：是完全可以的。

朱：这属于地方文化。

杨：什么时候有空的时候我把你带到（本市）南部，你和我们一起去走，只是做这一套（指完全是祭祀仪式），很大，大生意，单独是这个（仪式）。

朱：那我得和你们去看一次。

杨：那个才有意思呢。

朱：大概多长时间你能遇上那样的一次大型仪式？

杨：这个时候不会做。每年春天。

朱：春天的几月份？

杨：正常的情况过了正月初五在东（南）部几乎天天有。只是你们不一定懂。（方言不一样）。

朱：那无所谓。

杨：那个（仪式）相当的隆重。那一套行头和和尚的差不多。

朱：这样。（读悬挂的神像两旁的对联及神像上的字）“远迎天仙圣，近接三界神”；“东峰宝殿”，“森罗宝殿”。

（二人闲谈，谈最近的安排，从略。）

朱：你现在糊的东西叫“表”，是吗？

杨：菩萨纸。（印刷着菩萨像和菩萨名的纸。）

朱：要把它粘起来？粘起来干什么？

杨：放这里。

朱：一张纸代表一个菩萨？总共多少张？

杨：18张。

朱：你现在写的这个叫“榜文”？

杨：对，那个叫“榜”。

朱：这个榜的大概内容是什么？就是什么时间，在什么地方，做什么事，请哪些神？

杨：哎，对。我们这一行叫“洪山堂”。

朱：一年不知道写多少回啊？

杨：是，有一次事（仪式）写一次。

（杨叫东家找一对烛台来，找盘子来，拿五个盘子，其中一个装茶叶米，嘱咐东家包一个喜钱包〔红纸里包点钱〕放在里面。）

朱：这些是供品？

杨：是，供品，敬菩萨的。

朱：三年的祭祀。

（杨忙于作准备，于是中间插入与杨女的谈话，另见。）

（问东家的地址名，填写榜文；问共同做事的人家家主名，填写榜文用。）

朱：这个菩萨纸（摆放）有没有固定的顺序？

杨：有，不能乱的。

（到室外悬挂“百脚旗”。）

朱：“百脚旗”。（按：如皋方言蜈蚣叫“百脚”。）

杨：（在门楣上贴符，开玩笑）我的个子还嫌高了点儿。

朱：你们现在贴的东西叫什么？

杨：符。太平符。四季平安太平符。

（吩咐东家拿酒、豆腐上来。）

（继续与搭档谈日程安排。）

（谈起去土地庙。）

朱：杨老板，要去土地庙里干什么？

杨：去土地庙上土地圣。

朱：先请驾？

杨：是。“驾”是上面一个“加”下面一个“马”。喊东家上来点蜡烛，酒还没有倒？（走过去倒酒。）

杨：拜三次。

（敬神仪式开始。）

如皋童子戏系列访谈之五

杨斌之女访谈纪要

时间：2005年8月29日上午（请神仪式开始前）

地点：江苏省如皋市东陈镇杭桥村王国仁（当日主家）家门前

采访人：朱瑞平

被采访人：杨斌之女（小学生，龙套演员）

整理人：朱瑞平

朱：你可喜欢你爸唱的这些东西？

女：喜欢。

朱：为什么？因为你爸唱得好听？还是因为他是你爸爸？

女：我爸爸唱得好。

朱：嗯，他确实唱得好，我看过。他唱得好你为什么不跟他学？（女摇头。）跟他学了以后个在他后面一起唱不是挺好的吗？（女摇头。）为什么呢？

女：（摇头）不为什么。

朱：你不喜欢不是应该有原因的吗？（女笑。）因为过去很多人——比如说爷爷唱得好，教给儿子，儿子唱得好，教给孙子，就是一家人一代一代都是唱这个东西。你为什么不愿意呢？

女：我随便。

朱：随便？

女：随便。

朱：你是随便谁？你爸爸让你唱你就唱？

女：（点头。）

朱：他不让你唱你就不唱？

女：（点头）嗯。

朱：你觉得你爸爸会不会让你将来跟他后面唱？

女：不知道。

朱：不知道啊？你没有问过他？

女：没有。

朱：你现在问问他。

女：（笑着摇头）不。

朱：你会唱什么？

（别人插话）：会不会唱一本书？

女：（摇头。）

朱：一段？

女：“王妈妈”。

朱：是一段？

女：嗯。

朱：你现在能不能给我唱？

女：（笑，摇头。）

如皋童子戏系列访谈之六

杨斌访谈纪要（之二）

时间：2005年8月29日下午 《女驸马》演唱结束以后

地点：江苏省如皋市东陈镇杭桥村王国仁（当日主家）家门前

采访人：朱瑞平

被采访人：杨斌、杨妻（搭档艺人）

整理人：朱瑞平

朱：我可不可以随便问你几个问题？

杨：可以。

朱：你学习这个用了多长时间？

杨：我从学到现在22年。

朱：22年？！喔！

杨：我离开学校门就开始了。

朱：专门有一个师傅？

杨：没有。我是自闯的（自学）。

朱：自闯的？

杨：起初是在通州，我搞雕刻。

朱：搞雕刻？

杨：是的。听到文艺届唱这些东西，我感觉到比较满意，我就想啊，来学。起初唱没有剧本，我把

上学时学的古诗——都是七个字的——连起来唱唱看，还可以。我自己唱的时候，被那边（通州）唱戏的老板（戏班班头）发现，把我带过去唱给他听了一下，他听了以后觉得满意，叫我在他那里唱。我心里不愿意在他那里，（所以）在他那里前后只有一个月。以后我就离了他的班子自己回来搞了。

朱：我看了你的演出，你确实非常有表演天赋。你上次演（《珍珠塔》里的）小方青得志的前后，表情的把握非常到位。我听过好几种，包括南通的和如皋的，很多人唱的我听不清楚。你的吐字非常清楚，每一句话我都能听得清楚。

杨妻：你去翻译能翻译过来吗？

朱：能翻译过来。

（有几句闲谈，从略。）

杨：（我们的发音）你还能接受的。像周边地区比我们唱得更清楚的少。

（闲谈关于第一次由日本给他打电话的情况，从略。）

朱：这一次回家我时间特别短，专门为拍这些东西而来，正好赶上你们有表演。

杨：也没有跑得很远。

朱：跑得远没有关系，弄一个车就行，关键是有表演。这一次运气比较好。

杨：运气好的。

杨妻：什么时候走？

朱：明天走。

（闲谈，谈我的日程安排，谈原来和上田老师的计划，从略。）

朱：可能春节前后再看你的表演。

杨：你什么时候回来跟我说，我就能安排你在什么地方看。

朱：给你添麻烦。

（闲谈，从略。）

朱：你完全自学成才。

杨：全部自闯的。

杨妻：但书是根据老书上的。

朱：是老书。我听得出来唱词这一部分七字句和十字句是书上来的。但是——

杨妻：道白是自己加的？

杨：道白，叙言（指叙述的话）。

杨妻：觉得怎么说法接得上就怎么说。

杨：像我们今天演的这本书就是嫌穷爱富。

朱：像你们上一次说的，都是“劝世文”。

杨：都是劝世文。

朱：童子戏都这样。中国很多地方戏也都是这样。

杨：比如说现在有些地方请高台戏（指现代歌舞表演。包括主家刚死了人，请一些表演团体来家进行很热闹的演出），我们的地区还是要通剧，我们在南部唱，他们要通剧，不要这个东西（现代歌舞表演）。

朱：高台戏是什么？

杨：就是流行歌啊。

朱：噢——前天晚上我还去看了一场。和祭祀有关的仪式我感兴趣。那个人家里过“六七”，也是

各种各样的表演，唱歌，荤的（指带黄色意味的）素的都有，热闹得很。我们在那里聊天，觉得如果是几周年祭也就算了，人刚死了，家里弄得那么热闹，反正不怎么传统，心理觉得不怎么舒服。弄这个（指童子戏），还比较符合气氛。

杨：比较有教育意义。

朱：你们真的不容易，自创一派。
你们每次唱同一本戏，变化大不大？

杨：基本上差不多。

杨妻：词都差不多。

杨：不一样的书，词就不一样。

朱：那是肯定的。

杨：演的角色也不同。什么样的书文适合怎么样演出。

朱：你们经常唱的书大概有多少种？

杨：目前大概有七八十本。

朱：七八十本？！

杨妻：演花袍的（指完全化妆的演出）没有，演花袍的只有二十多种。

朱：这也不简单。演花袍你得全部背下来呢。

杨妻：是的，而且都要演得大家配套的（指能配合在一起）。

朱：不容易。

杨妻：十多年前有一次我丈夫在一个地方表演，表演的戏文内容和一个（观众）老太太（的生活经历）一样，把那个老太太当时就哭得晕过去了。

（闲谈，从略。）

朱：你说的“南路”是如皋的南部？

杨：是如皋的南部，平潮、车马湖、白蒲、林梓。

朱：我们如皋虽然地盘不大，各地的风俗还也有些差别。

杨：有，一方一方的。

杨妻：不同。你像——

朱：实际上童子戏发生还是在九华（如皋南部地名）？

杨：通州（原南通县）。

朱：我以前看过两次开坛，你们的开坛很像南通的。

杨：是的。

朱：这边这一带的——

杨：很简单的。

朱：唱得好象差得不是太多，都是好象请三界（神仙）是吗？

杨：嗯。

朱：但他们就穿普通的衣服，而且一般就是一个人唱。

杨：我们这个不。（有行头，二人唱。）做得大的（大型仪式），专门敬神的，头绪就很大了，三个（人），五个（人）——

杨妻：有的时候去十几个呢。那就不唱这个戏了。

杨：不唱这个戏了，专门做那个大会。有五张八仙（桌），有七张八仙（桌），有三张八仙（桌），“跑

方”（一种队列表演，似乎最初是佛教里的仪式）。

杨妻：全部穿草鞋。

朱：这个应该去看。

杨：各有各的式样（名堂）。

杨妻：但是这个要碰得巧。

杨：你回来春节期间我可以帮你联系。

朱：到时候麻烦你。

杨：不要紧，一句话。这个绝对可以。

朱：今天你蛮辛苦的。等以后有机会，等那个日本同事来了以后，他可能有一些问题想问问你。

（中有几句闲谈，从略。）我问问题可能问不到点子上，到时候再向你请教。谢谢你。

杨：别客气。

朱：你们早点休息。

杨：行行行。

如皋童子戏系列访谈之七

陈圆琪访谈纪要

时间：2006年2月14日上午

地点：江苏省如皋市文化局会议室

采访人：朱瑞平

陪同：方荣国（如皋中学教师）

被采访人：陈圆琪（文化局秘书）

整理人：朱瑞平

朱：全市童子戏表演艺人有哪些人？他们表演活动的情况你可了解？

陈：解放前童子戏主要分布在如皋南部，就是磨头向南，长江以北，南通的西北边。请童子唱青苗会——就是在收割后的稻田里——猪栏会——卖了肥猪以后在猪圈里贴符，祈求太平，是古代雩戏发展过来的，带有避邪的意愿在里面。新中国成立前，在如皋比较盛行。解放后一度没有了。

童子戏本来不叫戏，本地叫“做会”。演出不复杂，男女童子来唱书，七字句，什么《梁祝》，《珍珠塔》，《陈英卖水》啊，《王清明合同记》啊，就是唱书，没有过多的表演。解放后，还有根基和市场。后来南通地区又搞了个通剧——因为南通地区没有自己的剧种，南通市召集一批民间艺人来搞一个通剧，形成一个剧种。文革之前搞了一段时间，演出的时候我也看过。搞的时候出现了一种情况：因为童子戏有十三种唱腔，有一部分人对原先的唱腔进行了大胆的改革，搞了《好书记》等几个戏，用新的唱腔，改动比较大，但是群众不太愿意接受，他们认为这个没有原来的好听。接着文革开始后（新搞的通剧）遭到批判，因为把书记写成瞎子。后来一段时间没有演出。

后来到了八十年代初（文化局83年成立的），农村文化生活比较单调，原先是童子的一部分人拉一个小班子，有的是一家人，有的是乡族的人。他们没有弦乐，是锣鼓打击乐，他们开始演出。一开始有三四个班子，沿袭了最简单的方式，三四个人坐在人家家里唱，就是唱书，没有舞台上的分角色的演。后来文化局看到这个情况，觉得首先要解决他们唱书中的糟粕，不能有封建迷信的其他不好的东西，于是开始对他们进行登记。

我84年到文化局，刚开始有六七个班子。当时我们对他们进行登记，要求考核，具有一定的演唱水平，而且对他们演唱的书要看，帮助修改，有些书就禁止，不能演。老百姓愿意接受。但是一开始也沿袭了过去的，比如这个村子里有一个人发起，出几块钱，那时候唱一场三四块钱，安排（艺人）吃饭，唱完了给各家贴一个太平符。后来我们要求唱就唱，不要搞这些形式了。后来老百姓一部分人看到童子戏有市场，原来没有唱过的也开始学习——他只要有文化，能够看懂这个书，

就能否演出。

以后到了 88 年的时候，还是我管理，大概有三十几个班子。有三四个人的坐唱，也发展出了舞台表演，当然还比较简单，分角色，带有一点表演。他们也添置服装，买人家剧团里的旧服装。当时一部分农民利用这个文化资源，适应农村的需要，走上了赚钱的路子。

到 80 年代后期，全县已经发展到三四十个团体。

这时候有些农村干部不理解：这是些封建迷信的东西，怎么可以存在？后来县文化局也做了一些工作：只要他们唱的内容形式是健康的，就应该让他们演，他们毕竟填补了农村专业剧团很少、文化生活少的问题。

这几年一直在发展，他们也在变化。现在群众眼界宽了，他们喜欢看歌舞。现在全市登记在册的有 85 个团，平均七八个人，每年演出在 25000 场左右。观众可以达到 700 多万人次。

朱：85 个团包括歌舞等其他的？

陈：包括歌舞、乐队在里面。实际上还有几十个没有登记，因为他们登记以后就会受到约束。我们也在这些方面不断在努力。

朱：80 多个团里有多少是纯粹演童子戏的？

陈：现在少了，只有 30 左右。现在最好的一个团是九华通剧团，84 年登记，直到现在比较平稳，经济效益好，活动地盘在如皋东南边、南通包括南通市区的西北边。他们每年的场次爆满，正月里把全年的场次都排满了。他们去年演了 580 多场，估计他们的年收入一般不少于一万五，多的会有两万多。老板原先是在外打工的，后来回家看到童子戏很受欢迎，也开始搞。花钱向老艺人学习，搞起来的。最近他去省里领奖，江苏省文化厅表彰他这个团是全省的民间优秀表演团体。

一月份我们也发了一篇文章在《人民日报》上（有复印件），介绍民营表演团体的一些经验。在江苏，有这么多民间表演团体的没有。

现在老百姓觉悟也提高了，迷信、黄色的东西基本上没有了。因为观众思想水平在提高，他们再搞那些也没有市场。

朱：刚才您提到有一段时间对童子戏的剧本进行加工——

陈：是把老剧本收过来帮他们改，告诉他们那些可以演，那些不行。现在我们也给他们提供一些本子，曲艺，说唱，提供给他们。我也给九华团写过现代戏。

朱：传统童子戏的本子局里有没有收藏？

陈：没有。他们自己身边有。九华团十几个人，能唱四十几个大戏，包括优秀传统节目，还有

二十多个折子。杨建平（九华团团长）本身可以移植剧本，可以把其他剧种的本子拿过来演。有时候他也带人去外地观摩。

朱：他们都是舞台表演？

陈：舞台可以，室内也可以。

朱：这些团在表演开始以前举行祭祀仪式或请神仪式的多不多？

陈：现在不多了。像九华团在南通演出，如果有人烧香、搞供品，他们就拒绝唱。过去搞请神送驾。

方荣国插话：现在他们要拍个资料，就是了解过去请神送神的仪式。

朱：是。因为刚才陈先生讲童子戏由傩戏发展而来的，傩戏都有悠久的传统和历史。现在童子戏的发展是对人民文化生活有好处，但也是距离原来的面目越来越远。

陈：对。他们也在吸收其他剧种的优点。

朱：登记的三分之一的团体演童子戏，他们都叫通剧团还是也有别的名称？

陈：一般叫通剧团，也有叫艺术团。

朱：其实我们的调查最感兴趣的是两个东西，一个是表演者的剧本，二是请神送神的仪式。

陈：他们比较普通的是点香、摆供品、放鞭炮，演唱结束了再点香放鞭炮送驾，全部结束了给出钱的人家贴符。

朱：根据你的了解，这些团里有没有老艺人？过去有些老艺人，他们的祭神仪式是比较特别的。比如像南通有些就很特别。

陈：我们这里的老童子现在已经唱不动了，现在都是七八十岁了，还有在世的，现在已经不在班子里了，要走访。

朱：这些老艺人局里有没有资料？

陈：现在这些资料有个问题，有些是不是在世，也很难说。还有区划调整，有些地址找不到了。

朱：现在登记的最新资料还是八十年代你搞的？有没有比较新的？还是新的旧的都有？

陈：现在有新的，旧的不知道有没有了。桃园过去有个张蓝青，还有个姓陈的，比较有名，一问就知道。郭元（如皋地名）这一带有好几个老童子。你找到九华的杨建平，他比较熟悉（这些老童子）。他过去拜过唱童子的师傅。

朱：根据您的了解，如东有没有唱童子的？

陈：没有。但是如皋的现在已经渗透到周围的七八个县市，如东西部、通州西部、南通市西部、海安南部、泰兴东部、张家港、东台等地。

朱：真正童子戏的发源就在九华一带？

陈：还有南通西部。南通过去有个陈全侯（音），比较有名。

朱：能不能带我看看登记资料？

陈：可以。

（去文化市场管理处看登记资料，资料有打印件。）

魏九榮出世（全集）

敬業一心堂

夏伯銀抄

上田望 朱瑞平校注

校注説明

凡屬誤字、俗字、脫落、漫漶、衍文等處，皆分別校改，寫爲校記，或加注說明。不能辨識之字，用□符號標示。“音同”、“音近而誤”均指如臯方言讀音而言。

請了神來又請神	好比元宵走馬燈
走馬燈兒團團轉	請神請下九霄雲
畫符念咒唐朝傳	請神要請九郎□①
若問符官出啓身	壇前道明②本□□
家住浙江金華府	蘭溪③縣管小東門④
父親魏徵爲宰相⑤	馬李肖⑥氏三母親

①末一字原闕損，一九九九年抄《魏九郎出世》（以下簡稱“九九年本”）作“君”。

②原寫作“𠄎”，疑爲“明”字，待考。九九年本作“起”。南通童子戲《袁樵擺渡》抄本此句作“壇前道懺本家門”。

③原寫作“藍谷”，九九年本作“蘭齊”，南通童子戲《魏九郎替父請神》抄本（以下簡稱“南通本”）作“蘭溪”。“蘭溪”見於《舊唐書》卷四十：“蘭溪，咸亨五年，析金華縣西界置”，今正。

④抄本殘缺末二字，因後文作“到了藍谷小東門”，故據補。

⑤後文均爲“丞相”，唯此作“宰相”。

⑥“肖”，南通本作“蕭”。此本通作“肖”。

1

一父三母生九子	先有八個伴當今
大郎魏乾侍郎職	二郎魏坎掌皇門
三郎魏良通征史①	四郎魏震入翰林
五郎魏巽大司馬	六郎魏離做巡城

七郎魏坤爲御史②
若要提表③九郎官
只因犯了天條罪
肖氏夫人懷六甲
報與丞相得知道
三朝燒過催生紙
取名叫個珍珠寶
九郎長到年七歲

八郎魏兌鎮九門
本是上方捲簾星
罰入魏家做子孫
腹④中生下小兒嬰
滿把抓香爐中焚
就代嬰兒取乳名
愛惜如同掌上珍
送他上學讀書文

①無此官名。待查。九九年本作“通征東”。

②九九年本亦作“御史”，似應作“御史”。

③“表”，原寫作“標”。

④“腹”，原誤作“服”，今正。下同。

2

崑山呂宜開學館
高廳①拜別雙父母
琴劍②書箱隨身帶
喚班④家將來相送
九郎來到書館內
細把家鄉說壹遍
家將回轉魏相府
呂宜先生心歡喜
學名魏徇字九榮
先從上大人念起
大學中庸論語孟
捲簾星君憐凡世

九郎前去念五經
又別嫂嫂八個人
四季衣服零用銀③
到了崑山小縣分
低頭作揖拜先生⑤
望乞先生指教明
單表九郎在書庭
就與相公取學名
寫在書面仿後存⑥
後讀百姓千字文
五經詩書腹中存
俗世文才記在心

①原寫作“斤”，“廳”之俗字。

②“琴劍”，原寫作“勤儉”，音同而訛，今正。

③“零用銀”，原寫作“另用良”，今正。

④“喚班”，似應作“換班”。《三國演義》101回“丞相可將換班軍且留下退敵”。

⑤“先生”原誤作“先先”，今正。

⑥“仿後存”，義未解，俟考。九九年本作“寫在書本上面存”。

3

先前三年先生教
常和同學默冷字

學後三載①教先生
後與先生論古文

知道哪日下大雨
飛鳥如從頭上過
接下九郎將書讀
萬歲早朝登大寶
孤家昔日游地府
西天取經報過談
三條願心還兩條
寡人⑥要搞⑦洪門會
哪個文官上界請
誰卿⑩代孤陽元請

曉得②何時惡風聲
算③到翎④毛有幾根
再表大唐⑤有道君
便叫朝前武共文
許下三千大願心
地府進瓜謝過神
欠掛一條未完成
三表三帖請三請⑧
哪個武將入幽⑨冥
卿家奏與寡人聽

①“載”原寫作“者”，音同而誤。今正。九九年本作“三年”。

②“得”，原誤作“德”。下同。

③原寫作“祿”，“算”之俗字。

④“翎”，原寫作“靈”，音同而誤，今正。

⑤“唐”，原誤寫“堂”。

⑥“寡人”，原寫作“廣人”，音近而誤，今正。下同。九九年本作“寡人”。

⑦“搞”原寫作“高”，音同而誤。九九年本作“了”。于義以“搞”為長。

⑧下一“請”字據義疑為“神”或“界”。九九年本作“界”。

⑨原寫作“又”，音同而誤，今正。

⑩原寫作“鄉”，形近而訛，今正。下同。

4

王問數①聲無人應
文官好像泥塑的
天子殿③上龍心怒
起屋全靠梁和柱
沒梁沒柱怎起屋
要你文武有何用
萬歲悶坐⑤金鑾殿
東班上面朝靴響
俯伏金堦壇啓奏
主公要把神來請
昔年玄成⑦魏丞相⑧
日在朝庭⑨理國事

沒有能②臣答一聲
武將賽如木雕成
罵④聲朝前無用臣
為君依的武共文
缺文少武怎為君
孤家親自去請神
來了魏家對頭星
走上溫窰⑥王翰林
臣有短表啓奏君
為臣推薦一個人
他能三界下公文
夜遊四海做都巡

①原寫作“故”，“數”之俗字。下同。

- ②原寫作“𠄎”，“能”之俗字。下同。
- ③原寫作“戾”，“殿”之俗字。下同。
- ④原寫作“嗎”，“罵”之俗字。下同。
- ⑤原寫作“座”，今正。下同。
- ⑥“漚窰”，義未明，疑為“樞密”之誤。九九年本作“西密”。
- ⑦“玄成”，原寫作“玄朝”。魏徵，字玄成，今據正。
- ⑧“丞相”，原寫作“臣相”。音同而誤，今正。下同。魏徵，在《說唐》、《西遊記》均為“丞相”。
- ⑨南通本作“朝中”，九九年本作“陽庭”。 5

.....

十字街前曾求雨	遊魂斬了老龍神
實①是魏徵把龍斬	我主焉能許願心
朝中只有魏丞相	別無能人會駕雲②
一言提醒唐天子	喜壞太宗李世民
不是王卿來奏本	孤家忘記老愛卿
王卿奏本孤准旨	沉埋擎天柱一根
磨墨御筆挨起墨	忙寫聖旨選魏徵
唐王御筆提在手	上寫聖③旨欽召臣
寡人選招魏丞相	許下三條大願心
西天取經唐三藏④	地府進爪姓⑤劉人
三條願心還兩條	欠挂一條未請神
滿朝文武皆凡俗	不能騰空駕祥雲

- ①原寫作作“石”，誤。
- ②原寫作“云”，今改。下同。
- ③原寫作“盛”，音同而訛，今正。下同。
- ④原寫作“芷”，“藏”之俗體。
- ⑤原寫作“姪”，形近而訛，今正。 6

.....

翰林王卿奏一本	孤家特意請愛卿
聖旨一道寫好了	玉印一個蓋當心
外用黃綾來包裹	插上一根雉①雞翎
派了朝前二欽差	速奔蘭溪召魏徵
二位欽差領聖旨	辭王別駕出②朝門
跨腳身坐風③快馬	出了京都長安城
逢府過縣不必表	到了蘭溪小東門

闖進鉄裏④門三座	到了魏家大府門
只見旗杆分左右	黃旗高挂九霄雲
大門有個大匾⑤額	一品當朝四字明
兩個欽差下了馬	旗杆柱上扣能行
欽差向前忙拱手	便把門官口內稱

①原寫作“雌”，筆誤，今正。

②原寫作“缶”，“出”之俗字，今正。下同。

③原寫作“鳳”，音形並近而訛，今正。九九年本作“風”。

④原寫作“哀”，形近而訛，今正。

⑤原寫作“區”，據義正。九九年本作“匾”。

7

我是京都差①來的	有封聖旨見大人
煩請尊言往裏報	報與丞相得知情
門官回言稱曉得②	五花廳上稟大人
府外來了二欽差	他說聖旨欽來臨
大人聽說聖旨到	即忙正衣接旨文
方翅烏紗③頭上戴④	大紅蟒袍穿在身
腰束八寶白玉帶	粉底朝靴足下蹬
象牙御笏捧在手	吩咐快把香案⑤焚
見旨如見君王面	二十四拜伏在塵
開讀聖旨忙供奉	又接二位欽差臣
將他接到迎賓館	躬身作揖各分賓
五花廳上擺下酒	款⑥待二位欽差臣

①原寫作“差”，“差”之俗字，今正，下同。

②“曉得”，原寫作“小德”，音同而訛，今正。

③原寫作“沙”，今正。下同。

④原寫作“代”，通俗用法。今改。下同。

⑤“案”，疑“來”之誤。

⑥原寫作“款”，“款”之俗體。今改。

8

朝外坐下二欽差	對坐丞相老大人
堂官旁邊執了盞	內侍①提壺把酒②斟
酒飲③數杯方落盞	大人告別往裏行
三位夫人忙迎接	便把相爺口內稱

京都來了皇聖旨
八個孩兒隨王駕
魏徵聽了嘆口氣
萬歲招選④無別事
要是不把朝綱上
只好隨旨上京去
愁只愁的珍珠寶
如今去了有六年

朝廷有什大事情
莫非哪人把官昇
三位賢妻不知情
差我三界去請神
逆了聖旨斬滿門⑤
好歹凶吉未卜明
一人崑山讀書文
年長十三將成人

①“侍”，原寫作“待”，形近而訛而訛，今正。

②原寫作“汎”，“酒”之俗字，今正。下同。

③原寫作“欽”，筆誤。

④“招選”疑當作“召宣”。

⑤原寫作“們”，今正。下同。

9

如果早晚回家轉
肖氏夫人聽得說
我夫在朝功勞大
這回進京是喜兆
丞相萬分無可奈
家人牽出能行馬
中廷④邀請二欽差
欽差上馬前面走
後頭馬趕前頭馬
曉行夜宿不必表
闖進鉄皮門三座
魏徵下了能行馬

教他外邊去逃命
叫聲相爺你放心
萬歲豈①能害忠臣
封官加爵②轉府門
吩咐家丁備能行
搭上雕鞍總先③成
立不待時即動身
魏徵上馬隨後跟
猶如風送月下雲
早到長安大國城
到了萬歲五朝門
蟠⑤龍柱上扣能行

①原寫作“宣”，筆誤，今正。九九年本作“豈”。

②“爵”原寫作“罰”，今正。

③“先”疑當作“現”。

④原寫作“中廷”，九九年本作“中廳”。據義疑為“廳”或“庭”。

⑤原寫作“蟠”，筆誤，今改。

10

欽差上朝交過旨
丞相聽得萬歲宣

萬歲殿上選魏徵
才敢邁步往裏行

蟒①袍綉帶上金殿		手捧牙笏臣稱②君
天子擡頭睜龍目		認得蘭溪魏玄成
主離龍墩十二步③		御手相摻④叫愛卿
敕賜金墩抹角座		龍鳳香茶獻一巡
茶飲數杯方落盞		天子金口叫愛卿
孤家選⑤你無別事		代孤三界去請神
請得諸神來赴會		永享⑥榮華太平春⑦
魏丞相 聽得說		串⑧成十字奏當今
魏丞相	在金堦	連忙啓奏
我主公	駕在上	聽臣來音

①原寫作“掘”，義未解。九九年本作“蟒”，據義正。

②原寫作“秤”，形近而訛。今正。

③原寫作“歲”，義不明。九九年本作“步”，據義正。

④九九年本作“挽”。

⑤“選”疑當作“宣”。

⑥原寫作“亨”，據九九年本改。

⑦原寫作“村”，義不解。九九年本字殘，疑為“春”，今正。

⑧原寫作“傳”，南通本作“串”，今正。或為“轉”字。

11

我老臣	理當應	將神來請
只因我	年老了	不能駕雲
若還是	我在那	二十年前
我老臣	領①旨意	去請神明
如今時	我老臣	二十年後
年弱老	我怎能	三界請神
腰酸痛	怎能騎	高頭雄馬
腳老了	我怎能	駕霧②騰雲
眼老了	我怎能	看天堂路
手老了	我怎能	捧表公文
望主公	生慈念	另選少將
代主公	到三界	去請神明

①原寫作“傾”字，據義正。

②原寫作“務”，今正。

12

唐天子	聞得奏	龍心大怒①
罵一聲	魏丞相	大膽欺君
太平年	你只是	嫌官太小
遼亂年	怕出陣	無用之人
如聽說	我孤家	封增官職
你靴尖	不離的	到我朝門
如聽我	金殿上	有銀賞賜
伸出來	兩只手	來接金銀
我寡人	要把那	諸②神來請
你推辭	年老了	不能請神
唐王主	在金殿	冲冲□□③
罵魏徵	你不行	那個能□④

①原寫作“恕”，據義正。下同。

②原寫作“請”，形近而訛。

③末二字殘，疑為“大怒”。

④殘一字，疑為“行”。九九年本作“你不行來那個行”。

13

叫殿前	一衆的	金瓜武□①
快拿下	魏丞相	老逆反□②
王喝一聲言未了		閃出金瓜武士們③
摘去魏徵象牙笏		解開白玉帶一根
脫去官帽和朝服		兩膀上了犯法繩
招牌一根背後插		立斬犯官老魏徵
殺人鑼鼓④前引路		前呼後擁⑤出朝門
劊子手提刀亮閃閃		陰陽官報惡時辰
監斬宮⑥差王樞⑦密		法場早到面當迎
魏徵綁在法場上		嚇壞朝前文武臣
忙壞魏家八個子		嚇得膽戰心又驚
爹爹犯了王國法		綁在午門問斬刑

①末一字殘，疑為“士”或“將”。

②末一字殘，疑為“臣”。

③末二字殘，九九年本作“閃出金瓜武士們”，今據補。

④原寫作“羅古”，今正。

⑤原寫作“前護後湧”，筆誤，今改。

⑥原寫作“宮”，形近而訛，據九九年本正。

⑦原寫作“軀”，據義。

⑧原寫作“吓”，據九九年本正。

14

.....

眼睜睜的難搭救	時間不長要送命
要是殺出長安國	反叛二字落罵名
古語盡忠難盡孝	萬事由命不由人
兄弟正在心意想①	金殿跪下四大臣
秦叔寶與尉遲公	賈閏甫同柳周臣②
四人金塔齊奏本	我主萬歲納爲臣
魏老丞相斬不得	他是朝前有功臣
斬了魏徵不大緊	怕的外國動刀兵
萬歲聽奏心大怒	喝罵貪生怕死人
孤家要把神來請	個個啞口不做聲③
孤家可恨④魏丞相	你們前來討人情
不看你們功勞大	去削⑤官職趕出京

①九九年本作“性急處”。

②原寫作“賈仁甫同柳川成”，均據《說唐》改。九九年本作“賈仁甫同柳州城”。

③字殘，據九九年本補。

④原寫作“限”，據義應作“恨”。九九年本作“孤家限住魏丞相”。

⑤疑當作“削去”。

15

.....

我今決定將他斬	赦卿無罪且起身
四人謝主歸班立	滿面惶恐冷透心
忽聽左邊朝靴響	走上茂公徐先生
執笏當胸忙啓奏	我主萬歲納爲臣
魏徵犯法理當斬	念他十大功勞在朝門①
盤古並無斬相理	望主開恩賜白綾
金殿正傳刑聖旨	闖出魏家救命星
來者不是別一個	三號獸子程咬金
喳開一張瓢兒嘴②	放開一條喇叭聲
挺腰凸③肚上金殿	捲衣撈袖罵昏君
魏徵犯了什麼法	爲何捆綁午朝門
我在瓦崗爲皇帝	混世魔王誰不聞

①此句九九年本作“念他功大年老臣”。

②原寫作“咀”，“嘴”之俗字。下同。

③原寫作“𡗗”，形近而訛，今正。

16

眾家兄弟保扶我
我把江山讓①李密
你這昏君掌天下
你的江山虧哪個
你若定把魏徵斬
江山終有興和敗
皇帝老兒大家做
口內說來朝上走
高叫昏王下來吧
唐王一見慌張了
惱了別人還可以
說得出來行得出

從未屈斬一個人
李密讓與你家登
動不動的就要斬大臣
全虧瓦崗寨②上人
君不正來臣不仁
又要輪到我頭頭③
不能讓給你一人
一雙大手往上伸
還讓馱子來混混
手按④胸前自評論
馱子不是省油燈
險險兒被他拖下九龍墩

①原寫作“𡗗”，“讓”之俗字，下同。

②原寫作“寨”，“寨”之俗字，下同。

③“頭頭”，義未明。九九年本作“頭上”。

④原寫作“安”，今正。

17

天子想罷①開金口
不是要把魏徵斬
皇兄奏本孤准本
限他十天把神請
十日不能請三界
咬金答應說好的
十日不能把神請
認定②西瓜不要了
唐王有喜有③煩惱
喜的咬金硬保本
唐王想罷離龍位
既然願保魏丞相

便把皇兄叫一聲
不限平人是不成
但有一事要說明
官還原④職回府門
定斬他人不容情
我保有人去請神
連我一同問典刑
送與昏王嚙嚙⑤心
只得敢怒不敢行
惱的呆子哄寡人
御手相摻叫愛卿
寫下保狀與寡人

①原寫作“把”，同音而誤，今正。下同。

- ②原寫作“尻”，“原”之俗字。下同。
 ③原寫作“任”，同音而誤，今正。下同。九九年本作“認”。
 ④原寫作“嘈”，據意改。
 ⑤二“有”疑當作“又”。

18

咬金回道①不識②字 你是曉得我不能
 從小不曾讀過書 只好煩勞徐先生
 茂公接口稱③遵命 我來代他寫狀文
 忙取四寶來寫起 咬金划字獻朝廷
 唐王寫下赦書表 呆子接到喜笑盈
 急忙跑到法場上 喝叫刀下莫斬人
 開讀聖旨念一遍 招牌撕得碎紛紛
 監斬官兒溜掉了 法場散去一衆人
 咬金馱了魏丞相 上殿謝主不斬恩
 天子殿上開金口 罵聲魏徵老逆臣
 不是孤家不斬你 衆位皇兄把本申
 饒你死罪難饒活 四十御棍不容情

- ①原寫作“到”，據義作“道”。
 ②原寫作“誤”，“識”之俗字，下同。
 ③原寫作“禍”，九九年本作“稱”，據正。

19

且暫收入天牢內 十日代孤去請神
 魏徵被打四十棍 披枷帶鎖入牢門
 來了滿朝文武 魏家八子看父親
 天牢裏面擺下酒 總與丞相來壓驚
 魏徵眼淌傷心淚 便把衆①位兄弟稱
 我在天牢身遭難 家中一點不知情
 意要寫封家書信 煩勞哪位送回程
 叔寶秦爺開言道 叫聲仁兄你放心
 兄長速把家書寫 我來代你寄書人
 紙墨筆硯取停②當 天牢交與老大人
 未提筆 先淚淋 串成十字寫書文
 魏丞相 在天牢 身遭大難

- ①原寫作“總”，據九九年本正。

②原寫作“仃”，“停”之俗字，下同。

20

.....

手提枝	羊毫筆	忙寫書文
上寫的	上大人	魏徵頓首
多拜上	孔乙①己	三位夫人
化三千	忤法了	唐王天子
七十二	在獄中	受苦千辛
爾小生	食俸②祿	遵公守法
哪一個	八九子	能替父親
佳作人	寫完了	可知禮也
生夫人	賜回信	爲夫放心
因萬歲	欽差我	三界奏請
奈年老	不能去	收禁牢門
程仁兄	鬧金殿	硬保十日

①原寫作“一”，今正。

②原寫作“奉”，音近而訛，應作“俸”。

21

.....

十日後	不能請	一命難存
爲夫的	有長短	妻莫悲切
千萬的	看照我	九榮姣生
把書信	只寫得	明明白白
交與那	秦瓊手	叔寶將軍
秦二爺	接家書	細看一遍
差天牌	人兩個	寄信回程
二天牌	接家書	收拾停當
辭魏徵	別眾將	上馬動身
出京都	離皇城	揚鞭打馬
直奔那	蘭溪縣	去下書文
曉行程	夜投宿	飢食湯飯

22

.....

早到了	金華府	蘭溪東門
相府外	下能行	將馬拴扣
把家書	呈門官	獻給夫人
肖①氏女	拆②家書	細看一遍

罵一聲	唐天子	無道昏君
記不得	金河龍	地府告狀③
幽④冥主	出差票	勾⑤你審問
我丈夫	寫一封	家書密⑥信
帶與那	陰世裏	崔爵府君
蒙表伯	主簿判⑦	偷樑換柱
添陽壽	二十載	復掌乾坤
你江山	如鉄桶	国泰⑧民□⑨

①原寫作“霄”，據上下句改正。

②原寫作“折”，筆誤，今正，下同。

③末一字殘，據九九年本補。

④原寫作“忬”，“幽”之俗字。

⑤原寫作“拘”，今改。

⑥原寫作“亾”，“密”之俗字。

⑦原寫作“判”，似為“判”或“利”字。待考。九九年本作“內”。

⑧原寫作“太”，今正。

⑨末一字殘，疑為“安”。

23

登龍位	享榮華	忘記了□①
我魏家	將忠心	保扶社稷
沒想到	負義君	不記前情
有一日	天睜眼	赦夫出獄
唐昏君	崩了駕	萬年罵名
肖氏夫	只嘆得	心悲意切
將回書	來寫起	喚進來人
天牌來到廳堂內		拜見三位太夫人
肖氏夫人開言道		有煩二位費②了心
回信一封相煩你		回去送與老大人
相送銀③子壹百兩		二位路上做盤纏④
天牌接過稱多謝		出府上馬奔京城

①末一字殘。九九年本作“忘記忠臣”。待考。

②原寫作“弗”，今正。

③原寫作“良”，“銀”之俗字。下同。

④原寫作“成”，音近而誤。今正。

24

將身回到長安國
即將回書來呈上
魏徵說道難爲你
天牌回去無話表
傳旨去到蘭溪①縣
光陰不覺第③八日
魏家八子慌張了
嚇壞咬金程猷子
抓頭摸耳心難過
按下衆人心擔怕
拆開回書看一遍
玉皇駕坐靈霄殿

天牢拜見魏大人
多蒙太太賞賜銀
有日出牢再補情
再表唐王萬歲君
封起②魏家大府門
嚇壞朝前文武臣
怎能前去替父親
哪個請神救魏徵
連我猷頭長不成
再表天牢魏大人
一口怨氣嘆出聲
便問太白李金星

①原寫作“國”，誤，今正。

②原寫作“啟”，同音而誤，今正。

③原寫作“弟”。“第”、“弟”，俗常通假。下同。

25

下方何人身有難
太白向前忙啓奏
下方大國唐天子
文武不能將神請
魏徵天牢長嘆氣
玉皇一聽開玉口
唐王要把願心了
魏徵生的九兒子
今年長成十三歲
我有寶貝交與你
鑽①天帽子登雲履
三件寶貝你收好

只見怨氣透天廷
玉皇大帝口內稱
要到三界去請神
限住上方文曲星
故爾驚動玉主君
便叫太白李長庚
除非上方捲簾星
現在崑山讀書文
理當替主了願心
去叫九郎轉家門
還有降龍索一根
送與魏家九郎君

①原寫作“專”，應作“鑽”字。下同。

26

太白金星領玉旨
下了三十三天界
金星立站雲端裏

帶領寶貝下天門
到了崑山小縣份①
看見九郎讀書文

龍頭拐杖指一指
左眼不跳右眼跳
心驚肉跳坐不住
金星就把神通顯
烏鴉不住當頭噪
此烏能知禍福事
父有難來母有難
不如去把先生稟①
將身來到書房內

九郎朦朧眼難睜
前心不驚後心驚
花園玩耍散精神
遣②只烏鴉空中鳴
九郎心裏暗沉吟
莫非家中有事情
哥哥嫂嫂有難星
收拾回家走一程
便把先生口內稱

①原寫作“分”，今改，下同。九九年本作“城”。

②原寫作“遺”，形近而誤，今正。下同。

③原寫作“并”，九九年本作“稟”字，應作“稟”。下同。

27

學生攻書六年整
今日我要回家去
呂宜聽說心歡喜
既然你要回家轉
說罷開了書箱子
上元甲子交代你
中元一卷花甲子
下元甲子也把你
送你一本通天律
寶劍一把交與你
此劍上面接七星
九郎雙手來接過

未曾回家看雙親
特來稟告老先生
叫聲學生小魏徇
我今送你貴寶珍
三元天書手中存
讀熟①能知普天星
念了曉得世上情
看知幽冥十八層
學習天文地理情
有話吩咐你記心
降龍降虎斬妖精
收在書箱裏邊存

①原寫作“熟”，“熟”之俗字，今正，下同。

28

書房拜別先生駕
將身來到香房內
學生攻書已六年
今日我要回家轉
師娘聽說如此話
今日你要回家去
花剪一把相送你

香房去別師母親
口將師娘叫一聲
未曾回家看雙親
特來拜別師母親
便把學生叫一聲
我也送你貴寶珍
異人傳授法術能

剪成紙人和紙馬
送你一根金釵子
若遇①江海不得過
九郎用手來接過
寶貝收在書箱裏

撒手放去能交兵
本是犀牛角彫成
此釵一指現路程
拜別師母出房門
還過束脩總分清

①原寫作“迂”，“遇”之俗體。下同。九九年本作“到”。

29

書房拜別先生駕
肩挑書箱和行李
今年今日來分別
九郎聽說掉下淚
回家看過雙父母
眾人分別轉家門
步步向前將城出
歸心如箭回家轉
按下九郎路上話
金星落雲搖身變
將身站在三岔路
小魏徇

往前行

又別一眾同學們
先生同學送出門
何日何時再相見
便叫先生同學們
還到母校讀書文
單表九郎回家去
逢人問路往前奔
那怕山高和水深
再表雲端李金星
變個白髮老年人
專等魏家九郎君
申成十字遇仙人

30

魏九榮
見一位
不知他
李太白
父姓什
你乃是
少年人
爲什麼
魏九榮
稱一聲
住浙江
東門裏

在路途
年老者
名和姓
向前來
母姓誰
排行幾
怎不在
遊荒外
聽得說
老公公
金華府
紅絨巷

正往前走
白髮壽星
擋住去路
先叫郎君
家住哪裏
叫什學名
書房讀書
哪裏行程
回言便答
聽我說明
蘭溪縣城
是我家門

31

我父親	魏玄成	黨朝丞相
母乃是	馬李肖	三位誥①命
我的母	生下我	兄弟九個
我乃是	數老九	名叫魏徇
在崑山	六年整	將書攻讀
忽然間	想父母	特回家門
到此處	迷失路	不知去向
望公公	請指點	世不忘恩
李太白	聽得說	開言便道
叫一聲	魏家子	書生魏徇
我方才	從浙江	蘭溪縣過
聽人說	你家中	遭了難星

①原寫作“浩”，形近而訛。下同。

32

你父親	逆法了	唐王天子
恕老年	免死罪	收禁牢門
限十天	將神請	官還原職
十日後	不能請	定罪斬刑
你兄長	人八個	并無主意
你母親	在後堂	望你回程①
魏九榮	聽得說	二目掉淚
望公公	生慈念	搭救父親
李太白	叫相公	不要啼哭
我老漢	特地來	救你令尊②
你趕快	回家轉	是③爲上策
若遲延	耽④誤了	你父性命

①原寫作“呈”，據義正，下同。九九年本作“程”。

②原寫作“遵”，今正。

③原寫作“事”，同音而誤，今正。

④原寫作“擔”，音近而訛，今正。

33

太白金星開言道	叫聲魏家九官人
不要在此悲切苦	要救你父快淨身
說罷用手只一指	化池清泉綠沉沉

九郎一見心歡喜	丟下書箱脫衣衿
渾身衣服都脫下	跳入池中就淨身
一個猛①子冒到底②	那邊尪③起一死人
九郎一見心難捨	可憐淹死少年人
不知自己凡胎脫	反說別人命歸陰
正在驚慌無進退	一陣狂風好驚人
颳去巾兒和鞋襪	只落裊褲共衣衿
九郎一見慌張了	跳入池塘④淚紛紛
叫我今朝如何好	蓬頭赤腳怎回程

①原寫作“湏”，形近而誤，今正。猛子，方言，潛泳。

②此句說從岸上跳入水中，直接潛泳到河底。方言。

③據文意當作“竄”。方言。

④原寫作“圪”，“塘”之俗體。

34

太白金星開言道	叫聲相公莫淚淋
我有一個舊帽子	鞋襪一雙總現成
若不嫌舊贈送你	還有絲鸞帶一根
九郎用手忙來接	拜謝公公老年人
頭戴鑽天帽一頂	腰束降龍索一根
腳下穿起登雲履	不大不小總就身
金星當時生一計	那邊來了你父親
哄得九郎回頭望	太白金星駕了雲
金星站在雲端裏	叫聲魏家九書生
我乃不是別一個	巡天御史李長庚
方才送你三件寶	都是無價貴寶珍
頭上戴的鑽天帽	鑽天入地去請神

35

腳上穿的登雲履	能走陽元各廟門
腰間束的降龍索	東海借馬借龍神
快些合眼念甲子	跟我腳下駕祥雲
九郎聽說心歡喜	二目閉得緊吞吞
耳邊只聽風聲響	到了蘭溪小東門
九郎丟在塵埃地	忙壞雲中李長庚
淹①埋九郎凡胎體	回到靈霄交旨文

按下金星歸上界	單表九郎回家門
按下雲頭方睜眼	小東門在面當迎
肩背書箱將城進	到了自家大府門
爲何不見人來往	門貼封批②好幾層③
九郎用手拉門扣	裏邊安童把話問

①“淹”，當作“掩”。

②原寫作“被”，當作“批”，同音而誤。下同。如臯方言“封批”指封條。

③原寫作“屈”，宜作“層”字。

36

誰人大膽把門拉①	不知皇法亂胡行
相爺現在天牢內	八位老爺總在京
前門皇上封了門	後門去見太夫人
九郎聽說忙回答	叫聲安童小家丁
我乃不是別一個	是你九爺回家門
天大事件總有我	我起封批你開門
安童聽說好歡喜	原來九爺轉家門
隨即雙手把門開	九郎邁步往裏行
進了一二三座門	音信②無聲好冷淨
來到五花廳堂上	家中齊哭一條聲
高哭好像生身母	低哭猶③如嫂嫂們④
九郎丟下書箱子	邁開大步走上廳

①九九年本作“扣”。作“扣”為長。

②原寫作“姓”，同音而誤，今正。九九年本作“寂寞無聲好冷淨”。

③原寫作“尤”，今正。

④原寫作“門”，“門”、“們”，俗常通假。下同。

37

將身來到後堂內	拜見三位老母親	
不孝孩兒回來了	攻書六年未回程	
今日回家來見母	爲何哭得這樣形	
小魏徇	跪在地	串成十字見母親
魏九榮	向前來	雙膝跪下
尊一聲	三位母	聽兒話云①
頭頂的	唐天子	花花世界
腳踏的	金塔地	朗朗乾坤

除皇親	并國戚	我家爲大
父丞相	母誥命	皇封爲君
不知道	爲什麼	母親悲哭
叫你兒	猜②不透	恩挂③在心

①原寫作“雲”，據義正。

②原寫作“祥”，九九年本作“猜”，今正。

③原寫作“卦”，音形並近而誤，今改。

38

果是我	八兄長	忤逆老母
莫非是	眾嫂嫂	得罪①娘親
肖氏夫	聽得說	雙目流淚
叫一聲	九榮兒	你不知情
并不是	八兄長	忤逆與我
說你家	眾嫂嫂	和睦②孝順
因唐王	遊地府	將願來許
要了那	洪門會	去請三神
恨只恨	王樞密	姦臣奏本
唐天子	選你父	去領公文
你父親	年紀老	不能去請
怒惱了	唐天子	斬你父親

①原寫作“德對”，音近而誤，今正。九九年本作“冒犯娘親”。

②原寫作“陸”，形近而誤，今正。

39

程伯父	鬧金殿	硬保十天
十日後	不能請	壹命歸陰
爲娘的	掐指算	今朝九天
到明天	午時刻	性命難存
枉生下	九個子	成何有用
皆不能	替你父	斬姦除根
就爲了	這件事	性命難保
卻叫你	爲娘的	怎不傷心
魏九榮	聽得說	微微①壹笑
叫一聲	親娘母	大放寬心
九郎將身來爬起		叫聲我母你放心

①原寫作“未未”，音近而誤，今正。

40

.....

母親嫂嫂不要哭	我上朝廷見當今
唐王肯把父親放	我替父親去請神
唐王不把父親放	我與昏君拼條命
兄弟九個興人馬	殺上金①殿滅②昏君
把這昏王殺掉了	扶住③父親坐龍墩
朝陽正宮是我母	東宮太子兒爲君
肖氏夫人一聲喝	大膽畜生了不成
魏家四代忠良將	怎肯落個反叛名
你的胎毛不曾乾	一口乳牙未脫淨
小小年紀說大話	無道怎能去請神
廚中有飯吃飽了	遠走高飛去逃命
寧可去個年老的	怎肯廢個少年人

①原寫作“京”，同音而誤，今正。

②原寫作“灰”，形近而誤，今正。下同。

③“住”疑當為“助”，同音而誤。

41

.....

九郎聽說回言答	我母說話理不順
寧可去個少年的	怎捨父親老年尊
爹爹好比一棵樹①	連根拔去影無形
兒比園中嫩韭②菜	割去頭刀二刀來
就是孩兒有長短	八個兄長養雙親
母親說我年紀小	兒將古人比你聽
甘羅③十二歲爲丞相	兒比甘羅長一春
楊香十二歲能打虎	王祥十四歲臥寒冰
紅孩當初年紀小	五十三參④拜觀音
四個金剛發身大⑤	反與和尚看廟門
燈籠雖大沒斤兩	秤砣雖小壓千斤
今日天晚來不及	明日大早兒上京

①南通本、九九年本均作“一棵蔥”。

②原寫作“菲”，筆誤，據義正。南通本、九九年本均作“韭”。

- ③ “羅”原寫作“露”，音近而誤，今正。下同。
 ④原寫作“摻”，據義正。九九年本作“能去摻拜觀世音”。
 ⑤南通本作“金剛雖大不中用”。

42

說罷手捧書箱子
 點起一支通蠟燭
 用心學習通天律
 一夜就把書讀熟
 九郎洗臉吃早膳
 七星寶劍腰間掛
 將身來到後堂內
 今朝有了十日整
 肖氏夫人聽得說
 長安離此路途遠
 就是趕到長安地
 年小那知皇家禮

轉彎①抹角奔書庭
 用過晚飯看書文
 三元天書學完成
 次日五更大天明
 整②起衣帽走上廳
 花剪金釵帶在身
 拜見三位老母親
 兒上京都替父親
 我兒說話欠聰明
 今日怎得到京城
 要救你父不可能
 騰雲駕霧你怎能

- ①原寫作“灣”，今正。下同。
 ②原寫作“正”，“正”、“整”，俗常通假。今改。

43

九郎回言不妨①事
 國家禮儀兒皆懂
 母親嫂嫂休悲切
 肖氏夫人無可奈
 我兒定要上京去
 進朝先會二兄長
 看見和尚叫長老
 年老之人稱伯叔
 九郎回言兒曉得
 無用兄長會什的
 看見和尚叫禿驢
 年老之人當兒子

叫聲母親你放心
 騰雲駕霧舊營生
 三日之內看父親
 一聲長嘆叫姣生
 諸凡事件要小心
 細心小膽見唐王
 遇到道士稱玄真
 同年班稱兄弟們
 不必母親細叮嚀②
 國法禮儀總知情
 遇到道士罵犬生
 同年班輩算會孫

- ①原寫作“不方”，應作“不妨”，今正。下同。
 ②原寫作“吟”，據九九年本改。

44

肖氏夫人慌張了
九郎來到天井裏
口內念動花甲子
叫聲母親兒去了
肖氏夫人擡頭看
好了好了真好了
太太在家安心放
一駕祥雲來得快
按落雲頭登凡地
皇門官兒二兄長
七星寶劍交與你
魏坎連忙來接過

冤家必定惹禍根
顯個神通與母親
腳下悠悠騰了雲
保重貴體莫勞神
拍手打掌笑個昏
魏家又出一能人
單表九郎去見君
到了長安大國城
到了唐王午朝門
九郎向前把禮行
弟去見駕救父親
你去見駕要小心

45

九郎答應稱曉得
將身來到金殿下
天子殿上開金口
你是朝前誰家子
寡人不曾招選你
九郎開言便啓奏
我是魏徵第九子
主公要把神來請
望主早把我父放
天子聽了心大怒
孤家江山該要滅
喝叫金瓜和武士

顛目大膽進午門
二十四拜見當今
便問殿下少年人
快快奏與孤家聞
顛①見寡人爲何因
口稱萬歲納小臣
名叫九榮字魏徇
限②住我父在牢門
我代主公去請神
喝罵魏家小逆③臣
玩童也來戲寡人
拿下狂④生小魏徇

①疑誤，待考。

②原寫作“陷”，同音而誤，今正。

③原寫作“遂”，據義正。九九年本作“小畜牲”。

④原寫作“枉”，形近而誤，今正。九九年本作“狂”字。

46

金瓜武士朝上湧
九郎一見心裏想
念念定身咒語看
口內念起定身咒

向前來拿九郎君
記起天書上面云
試試陰陽靈不靈
定住金瓜武士們

兩班文武如釘定	朝看九郎暖①眼睛
九郎一見心歡喜	大起膽來叫唐君
小臣謊言冒犯你	快點拿我問典刑②
天子一嚇慌張了	叫聲魏家小愛卿
你說會把神來請	放了武士破天文
若知天文和地理	方可三界去請神
九郎③念起放身咒	金瓜武士總動身
放了金瓜和武士	九郎向前啓奏君

①“暖”，讀 xuan，大目。九九年本作“眨”（疑當為“眨”）。

②原寫作“點形”，同音而誤，今正。九九年本作“斬刑”。

③原寫作“神”，今正。

47

談起天文和地理	從小念的上大人	
只要主公出題目	小臣對答講你聽	
唐王一想開金口	叫聲卿家聽寡人	
天到地（說文 九郎對答不唱①）	有多遠	南北周圍那方寬
日出東方何處出	幾里推雲塞海岸	
星月占地多少畝	世上草木有幾盤	
什麼星兒前娘養	什麼星兒後娘生②	
什麼星兒挑過淮河③	什麼星震得眼睛川④	
什麼星下方受孤獨	什麼星下界得團圓	
什麼星兒下界殘⑤人血	什麼星下界做高官	
什麼星兒懸空挂	什麼星君靠定盤	
什麼星不⑥離淮河口	什麼星緊靠月邊川	
天上淮河有幾彎⑦	幾曲幾彎住星元	

①“說文九郎對答不唱”，南通本、九九年本均無此八字。

②“什麼星兒後娘生”，抄本原無此句，據九九年本補。

③“什麼星兒挑過淮河”，抄本原無此句，據九九年本補。

④末一字殘，據九九年本補。

⑤待考。“殘”，疑為“餐”。南通本作“食”，九九年本作“吃”。

⑥原誤寫“下”，據九九年本改。

⑦原寫作“玦”，據九九年本改。南通本作“淮河彎曲有幾彎”

48

頭壹彎子哪個住	第二彎子哪個安①
---------	----------

哪彎對了第幾彎	第幾彎裏有桃園②
多少年來開花多少年結果	多少年成熟果周全
共③結多少仙桃子	多少甜來多少酸
哪個偷桃誰人吃	哪個吃桃說桃酸
什麼人在旁來守看	什麼人慶祝過桃園
什麼人吃了仙桃子	與天同慶沒春寒
天上哪④個常十八	看見淮河幾次旱
月裏老兒姓什麼	幾歲提斧砍梭羅
手執斧頭幾斤重	哪方砍下一枝柯
月中梭羅共幾枝	幾枝⑤長來幾枝短⑥
幾枝長的朝上長	幾枝短的往下圈

①九九年本作“登”字。

②原寫作“圓”，據義改，下同。

③原寫作“供”，今正。

④原寫作“那”，今正。

⑤原寫作“支”，今正。下同。

⑥原寫作“知”，據上下文義正。

49

金雞站在哪①枝上	頭朝哪②裏鬧喧喧
說一盤來破一盤	量天尺是哪個傳
這是天文一段景	趕快對孤從頭③喧
你若對出天文理	封你三界符使官
如有一言對錯了	推出午門斬兩段
九郎金塔忙啓奏	口稱萬歲聽臣喧
主公說的混天球	爲臣知道本根由
天到地廿一万六千七百八十一里半	東西窄來南北寬
日出東方扶④桑出	萬里推雲塞⑤海岸
星月占地三十畝	世上草木總一盤
燈草星兒前娘養	石頭星兒後娘生⑥
石頭星擔⑦過淮河	燈草星兒震⑧得眼睛川

①原寫作“那”，今正。

②原寫作“那”，今正。

③原寫作“直”，九九年本作“頭”字，今正。

④原寫作“巫”，今正。

⑤原寫作“寒”，形近而誤，據前文正。

⑥原寫作“傳”，南通本、九九年本均作“生”，今正。

⑦“擔”，九九年本作“挑”字。

⑧原寫作“振”，據前文改。

50

巽離星下方受孤獨
白虎星下界殘人血
北斗七星懸空挂
踏車星不離淮河口
天上淮河共九曲
頭壹彎子張郎住
三曲對了第六彎
一千年開花二千年來才結果
共結九百仙桃子
行者偷桃唐僧吃
二郎在旁來看守
王母吃了仙桃子

和合星下界得團圓
文曲星下界做高官
紫微星君靠定盤
鳥兒星緊靠月邊川
四曲五彎住星元
第二彎子李郎安
九彎裏面有桃園
三千年成熟果周全
四百甜來五百酸
唐僧吃桃喊桃酸
八仙慶祝過桃園
與天同慶沒春寒

51

天上二郎常十八
月裏老兒本姓吳
手執斧頭七斤重
月中梭羅共九枝
四枝長的朝上長
金雞站在中枝上
說一盤來破一盤
這是天文一段景
萬歲聽說心歡喜
你能對出天文理
上界天仙八郎官
中界雲仙九郎官

記得淮河三次旱
七歲提斧砍梭羅
東南砍下一枝柯
四枝長來五枝短
五枝短的往下圈
頭朝西北鬧喧喧
量天尺是二郎傳
果曾差錯半毫分
叫聲魏家九愛卿
聽孤封贈你當身
靈霄殿上請玉君
去請東嶽天齊神

52

下界水仙五郎官
三界符官都是你
儒釋道教都敬你

幽冥地府請閻①官
只換衣帽不換人
洪山堂內你為尊

萬歲封了大半刻	九郎在下不謝恩
天子看看又②開口	便叫卿家聽寡人
是否嫌孤封贈小	卿家為何不謝恩
九郎一聽忙啓奏	謝主龍恩雨露深
官位不問大和小	父在天牢我不放心
望主早把我父親赦	我到三界去請神
唐王天子龍心喜	這是忠孝兩全人
即把赦③書來寫起	交與九郎手中存
九郎接過赦書旨	拜謝萬歲奔牢門

①原寫作“閻”，“閻”之俗字。下同。

②原寫作“有”，據九九年本正。

③原寫作“郝”，形近而誤，今正。

53

後跟瓦崗人一眾	總是魏徵結拜人	
徐勣①秦瓊尤俊達	拍掌大笑程咬金	
高叫仁侄慢些走	我們去看你令尊	
衆人來到天牢內	只見丞相變了形	
手銬腳鐐鬧床上	長呼短嘆放悲聲	
人人看見心悲慘	個個傷心淚淋淋	
父子九個爲官職	勢壓秦遼誰不聞	
真是伴君如伴虎	官高爵顯古人云②	
九郎來到天牢內	拜見生身老父親	
不孝孩兒離膝下	攻書六年未探親	
昨日回家探過母	今日上朝替父親	
衆朝官	鬧嚷③了	申成十字進牢房

①原寫作“勣”，《說唐》作“徐勣”，今正。

②原寫作“雲”，據義正。

③原寫作“吐”，“嚷”之俗字。

54

魏九榮	進天牢	高冠陪輦①
叫獄官	快點起	銀燭煒煌
四周圍	看不見	府羅將相
老魏徵	在鬧床	執熱願涼②
衆公卿	向前來	矯手頓足

把魏徵	忙扶起	藍筍象床
除刑具	忙代起	宣威沙漠
渾身上	更換衣	乃服衣裳
天牢內	設一張	戶封八仙
桌子上	擺酒餚	菜重芥薑
你一杯	他一盞	川流不息
蒙眾兄	情難捨	豈敢毀傷

①此段第三行均據《千字文》寫。原寫作“高官排輦”，應作“高冠陪輦”。

②“執熱願涼”，九九年本作“器欲難量”。

55

魏玄成	用飽了	具膳餐飯
講的是	國家話	靡恃已長
忽想起	唐皇王 ^①	龍師大 ^② 帝
恨只恨	王樞密	烏官人皇
唐太宗	寫三封	箋牒簡要 ^③
定要我	去請神	天地玄黃
因年老	不能去	吊民伐罪 ^④
丟在那	天牢內	器欲難量
若不是	魯 ^⑤ 國公	孔懷兄弟
要不然	老性命	捕獲叛亡 ^⑥
今日裏	虧九榮	猶 ^⑦ 子比兒
上金殿	奏帝王	賴及萬方

①“唐皇王”前原衍“國”字，今刪。九九年本作“唐皇王”。

②原寫作“大”，筆誤，應作“火”。

③原寫作“牋帖簡要”，據《千字文》改。

④原寫作“弔民法罪”，據《千字文》改。

⑤原寫作“曹”，據《說唐》程咬金封為魯國公。曹國公乃徐茂公。九九年本作“魯”字。今改。

⑥原寫作“捕獲叛雲”，據《千字文》改。九九年本作“率賓歸王”。

⑦原寫作“擾”，據《千字文》改。

56

魏丞相	說不盡	罔談彼短
眾朝官	只聽得	悚 ^① 懼恐惶
言不盡	千字文	鳴鳳在竹

請魏徵	出天牢	白駒②食場
九郎扶起生身父		衆人跟隨出③監房
天牢自有人收拾		單表魏徵見唐王
將身來到金塔下		二十四拜見聖上
唐王擡頭睜龍④目		不卻⑤心中嘆一場
委⑥屈丞相年邁老		髮髮蒼蒼如白霜
孤家再不加⑦封他		衆位皇兄冷心腸
萬歲想⑧畢離龍位		御手相摻叫丞相
不是孤家難爲你		九郎怎能保孤王

①原寫作“驚”，據《千字文》改。九九年本亦作“悚”。

②原寫作“狗”，據《千字文》正。

③原寫作“云”，形近而誤，今正。九九年本作“出”。

④原寫作“矚”，據義正。九九年本作“龍”。

⑤“卻”，當為“覺”，音近而誤。

⑥原誤寫“倭”，據義正。

⑦原寫作“駕”，九九年本作“加”，今正。

⑧原寫作“恣”，“想”之俗體。

57

蘭溪錢糧孤不要	賜與卿家養無常①
門前造起下馬牌	文武百官拜忠良
皇親太子都下馬	孤行三步過府堂
免死金牌賜與你	永不遣②你上朝綱
魏徵急③忙把恩謝	辭王別駕出朝綱
來了滿朝文共武	魏家八子接得慌
叔寶牽來能行馬	口稱丞相你在上④
這是仁兄騎來馬	今日奉還你回鄉
魏徵說道難爲你	多蒙衆位費心腸⑤
辭別咬金程猷子	即刻上馬出朝綱
九郎隨後也來了	雙膝跪下叫父王
孩兒盡忠難盡孝	不能回家拜別娘

①“養無常”，九九年本作“養育恩”，待考。

②原寫作“遣”，據義正。

③原寫作“即”同音而誤，今正。

④末二字殘，據九九年本補。

魏徵聽說流下淚
你代主公將神請
替主了過洪門會
不表魏徵回相府
將身來到金塔下
臣替主公將神請
唐王回道現成的
文官修成三道表
三宮娘娘做封套
九郎雙手忙接過
我到三界將神請
唐王說道有有有

叫聲我兒魏九郎
細心小膽見唐王
早早回家見親娘
再表九郎見唐王
口稱萬歲駕在上
萬歲果曾備表章
三日之前就停①當
武將寫好帖三張
寡人玉璽印在上
又稱唐王有道王
才要三色馬絲繮
孤有龍馬請三皇

唐僧取經白龍馬
漢王遺下黃彪馬
三色龍馬有兩匹
孤寫一道皇聖旨
說罷聖旨來寫好
開言又叫萬歲主
萬歲殿上傳下旨
九郎一見火盆到
將身跳入火盆內
金殿俯伏王樞密
九郎不能將神請
燒死九郎不要緊

能到上界請玉皇
能請東嶽天齊王
少匹下界請地藏
要去借馬找龍王
九郎接手藏身上
火盆一個要停當
即刻火盆擺殿上
顯個神通嚇唐王
連人帶①表火中焚
又來殘②害魏丞相
懼法投火把命喪
可惜③龍樓表三章

①原寫作“代”，“代”、“帶”，俗常通假。

②原寫作“戏”，形近而誤，據九九年本正。

③原寫作“借”，當作“惜”。

此為金蟬脫殼計
唐王回言不妨事

子替父死孝名揚①
趕回魏徵把罪當

九郎雲端開言道
火化龍樓三道表
臣到東海去借馬
唐王皇帝擡頭看
上天無繩把他繫
人人都是父母養
想必孤家洪福大
叫聲卿家下來吧
九郎收雲金塔站
魏家與你何仇隙

口稱萬歲有道王
才能三界請三皇
又拿我父是怎樣
望見九郎在天上
地上又無撐他棒
爲何九郎法力強
出此能臣保朝綱
休要嚇壞你孤王
口叫樞密你思量
三番兩次傷天良

①原寫作“揚”，據義正。

②原寫作“体”，筆誤，今正。

61

果知害人必害己
我要害你不費力
說得姦賊無言對
九郎辭別唐王主
別過魏坎二兄長
進朝出朝無①阻隔
此書就從這裏止
要知九郎後來事
今天唱書不好聽
一來字眼不分淨
諸位不嫌③噪子醜
托壺瓶 酒滿斟

盡忠保國子孫昌
大人心中細參詳
改惡從善做忠良
又別文武出朝綱
七星寶劍帶身上
九郎救父回府上
大家休息談家常
東海借馬鬧龍王
要請各位要原諒②
二來噪子也平常
明天再請會場④聽
在會人等發萬金

①原寫作“天”，形近而誤，今正。

②原寫作“涼”，今正。

③原寫作“賢”，同音而誤，今正。

④原寫作“伤”，形近而誤，今正。

〈完〉

魏九榮
山世全集

北敬
一心堂夏伯銀

請了神來又請神
好比元宵走馬灯
走馬灯儿团二转
請神請下九霄雲
画符念咒唐朝傳
請神要請九郎
看問符官出召身
坛前道奶存
家住浙江金華府
兰谷县管小
父亲魏征為宰相
馬李肖氏三廿喜

一父三母生九子 先有八子伴当今
大郎魏乾侍郎取 二郎魏收掌皇門
三郎魏良通征史 四郎魏震入翰林
五郎魏巽大司馬 六郎魏高做巡城
七郎魏坤為御史 八郎魏克鎮九門
若要提表九郎官 本是上方捲簾星
只因犯了天条罪 罰入魏家做子孫
肖氏夫人怀六甲 腹中生下小兒嬰
報與丞相得知道 滿把孤香炉中焚
三朝燒過催生紙 就代嬰兒取乳名
取名叫了珍珠室 愛惜如同掌上珍
九郎長到年七歲 送地上學讀書文

崑山呂宜開學館 九郎前去念五經
高升拜別双父母 又別嫂：八子人
勸檢書箱隨身帶 四季衣服另用良
喚班家將來相送 到了崑山小縣分
九郎來到書館內 低頭作揖拜先先
細把家鄉說壹遍 望乞先生指教明
家將回轉魏相府 單表九郎在書底
呂宜先生心欢喜 就与相公取學名
學名魏徇字九榮 寫在書面傍后存
先从上大人念起 后讀百姓千字文
大學中庸論語孟 五經詩書腹中存
捲簾皇君憐凡世 俗世文才記在心

先前三年先生教 學后三者教先生
常和同學默吟享 后與先生論古文
知道哪日下大雨 曉德何時惡風聲
飛鳥如从头上過 祿到靈毛有几根
接下九郎將書讀 再表大堂有道君
萬歲早朝登大堂 便叫朝前武共文
孤家昔日遊地府 許下三千大願心
西天取经報過談 地府進瓜謝過神
三条願心还兩條 欠掛一條未完成
廣人要高洪門會 三表三帖請三請
哪了文官上界請 哪了武將入又具
誰鄉代孤阳元請 鄉家奏与广人所

王問，收声无人应 沒有臣臣答一声
文官好俊泥塑的 武將富如木雕成
天子屏上龙心怒 嗎声朝前无用臣
起屋全靠梁和柱 為君依的武共文
沒樑沒柱怎起屋 缺文少武怎為君
要你文武有何用 孤家亲自去請神
萬歲同座金臺展 来了魏家对天星
東班上面朝靴响 走上福靈王翰林
俯伏金階坛君奏 臣有短表君奏君
主公要把神來請 為臣推荐一了人
昔年玄朝魏臣相 他亡三界下公文
日在朝庭理國事 夜遊四海做都巡

十字街前曾求雨 遊魂斬了老鬼神
石是魏征犯龙斬 我主焉能許願心
朝中只有魏丞相 別元上人會駕云
一言提醒唐天子 喜坏太宗李世民
不是王鄉來奏本 孤家忘記老愛卿
王鄉奏本孤准旨 沉埋敬天柱一根
唐墨御史揆起墨 忙寫聖旨選魏征
唐王御笔提在手 上寫成旨欽招臣
广人選招魏臣相 許下三条大願心
西天取经唐三竺 地府進瓜姪列人
三条願心还两条 欠挂一条未請神
滿朝文武皆凡俗 不肖滕空駕祥云

翰林王鄉奏一本 孤家特意請愛卿
成旨一道寫好了 玉印一个盖当心
外用黃綾束包裹 插上一根雌鷄翎
派了朝前二使差 速奔兰谷招魏証
二位欽差願聖旨 辞王別駕出朝門
跨脚身座鳳快馬 出了京都長安城
逢府过县不必表 到了兰谷小東門
圍進鉄哀門三座 到了魏家大府門
只見旗杆分左右 黃旗高挂九霄雲
大門有了大匾額 一品当朝四字明
雨了欽差下了馬 旗杆柱上扣上行
欽差向前忙拱手 便把門官口内称

我是京都差來的 有封圣旨見大人
煩請尊言往里報 報與丞相這知情
內官回言稱小德 五花斤上稟大人
府外來了二欽差 他說圣旨欽差臨
大人听說圣旨到 即忙正衣接旨文
方翅烏紗頭上代 大紅蟒袍穿在身
腰束八宝白玉帶 粉底朝靴足下蹬
象牙御筭捧在手 吩咐快把香案焚
見旨如見君王面 二十四拜伏在塵
間讀圣旨忙供奉 又接二位欽差臣
將他接到迎賓館 躬身作揖各分賓
五花斤上擺下酒 款待二位欽差臣

朝外座下二欽差 对座丞相老大人
堂官旁边執了盞 內侍提壺把酒斟
沈欽敬杯方落盞 大人告別往里行
三位夫人忙迎接 便把相公口內稱
京都來了皇圣旨 朝廷有什大事情
八子孩儿隨王駕 莫非哪人把官升
魏征听了嘆口乞 三位賢妻不知情
萬歲招选无別事 着我三界去請神
要是不把朝綱上 送了圣旨斬滿們
只好隨旨上京去 好歹吉凶未卜明
愁只愁的珍珠室 一人崑山讀書文
如今去了有六年 年長十三將成人

如果早晚回家報 教他外邊去逃命
肖氏夫人听臣說 叫声相爷你放心
我夫在朝功劳大 萬歲宣旨害忠臣
這回進京是喜兆 封官加爵報府們
丞相萬分无可奈 吩咐家丁各自行
家人牽出馬行馬 搭上雕鞍总先成
中廷邀請二欽差 立不待時即动身
欽差上馬前面走 魏征上馬隨后跟
后頭馬趕前頭馬 由如風送月下雲
曉行夜宿不必表 早到長安大國城
圍進鉄皮門三座 到了萬歲五朝門
魏征下了馬行馬 踏地柱上扣馬行

欽差上朝交过旨 萬歲展上选魏征
丞相听臣萬歲宣 才敢迈步往里行
摳袍綉帶上金屏 手捧牙笏臣拜君
天子抬頭睜龍目 認臣三谷魏玄臣
主高龙墩十二歲 御手相搀叫愛卿
勅賜金墩抹角座 龍鳳香茶献一巡
茶飲此杯方落盞 天子金口叫愛卿
孤家选你无别事 代孤三界去請神
請德諸神來赴會 永享榮華太平村
魏丞相听德說 侍成十字奏当今
魏丞相在金塔 連忙启奏
我主公駕在上 听臣來音

我老臣理當應將神來請
只因我年老了不_能駕雲
若還是我在那二十年前
我老臣傾旨意去請神明
如今時我老臣二十年后
年弱老我怎_能三界請神
腰酸痛怎_能騎高頭雄馬
脚老了我怎_能駕各騰雲
眼老了我怎_能看天堂路
手老了我怎_能捧表公文
望主公生慈念另選少將
代主公到三界去請神明

唐天子聞德奏尤心大怒
嗎一聲魏丞相大胆欺君
太平年你只是嫌官太小
辽亂年怕_不出陣无用之人
如_若聽說我孤家封增官取
你靴尖不高的到我朝門
如_若我金_上有銀賞賜
伸出來兩只手來接金銀
我寡人要把那請神來請
你推辭年老了不_能請_神臣
唐王主在金_上冲_之又_又惊
嗎魏征你不行那_个上_斬刑

叫展前 一眾的 金瓜亮怒
快舒下 魏丞相 老送與君
王喝一声言未了 閃出金瓜武士小
搗去魏征象牙笏 解開白玉帶一根
脫去官帽和朝服 兩膀上了犯法緋
招牌一根 背後撞 立斬犯官老魏征
殺人羅古前引路 前护后湧出朝門
劍子手提刀亮閃 阴阳官報惡时辰
監斬官差王根密 法場早到面当迎
魏征綁在法场上 吓坏朝前文武臣
忙坏魏家八丁子 吓得胆战心又慌
爹二犯了王國法 綁在午門向斬刑

眼睁睁的难搭救 時間不長要送命
要是赤出長安國 反叛二字落嗎名
古語尽忠难尽孝 萬事由命不由人
兄弟正在心意想 金展跪下四大臣
秦叔宝与尉迟公 賈仁甫同柳川成
四人全皆齊奏本 我主萬歲納為臣
魏老臣相斬不活 他是朝前有功臣
斬了魏征不大緊 怕的外國动刀兵
萬歲听奏心大怒 喝嗎貪生怕死人
孤家要把神未請 了二噫口不做
孤家可限魏丞相 你們前來討人情
不看你們功劳大 去前官取趕出京

我今決定將他斬 赦卿無罪且起身
四人謝主歸班立 滿面惶恐冷透心
忽听左边朝靴响 走上茂公徐先生
執笏当胸忙启奏 我主萬歲納為臣
魏征犯法理当斬 念他十大功劳在朝門
盤古并無斬相理 望主開恩賜白綾
金展正律刑圣旨 問出魏家救命星
末者不是別一了 三号獸子程咬金
喳開壹張瓢兒咀 放開一条喇叭声
挺腰亞肚上金展 捲衣撈袖嗎昏君
魏征犯了什麼法 為何捆绑吓朝門
我在瓦崗為皇帝 混世魔王誰不聞

众家兄弟保扶我 从未屈斬一個人
我把江山証李密 李密証与你家登
你這昏君掌天下 动不动的就要斬大臣
你的江山亏哪個 全亏瓦崗富上人
你若定把魏征斬 君不正末臣不仁
江山終有興和敗 又要輪到我興二
皇帝老儿大家做 不亡証給你一人
口内說末朝上走 一双大手往上伸
高叫昏王下來吧 还証獸子末混二
唐王一見慌張了 手安胸前自許論
恼了別人还可以 獸子不是省油灯
說臣出来行臣出 險二儿被他拖下九龍墩

天子想把开金口 便把皇兄叫一声
不是要把魏征斩 不限平人是不成
皇兄奏本孤准本 但有一事要说明
限他十天把神請 官还取回府門
十日不能請三界 定斩他人不容情
咬金答应說好的 我保有人去請神
十日不能把神請 连我一同向典刑
任是西瓜不要了 送与昏王噴二心
唐王有喜有煩惱 只道敢怒不敢行
喜的咬金硬保本 恼的戴子哄寡人
唐王想把高龍位 御手相搀叫愛卿
既然願保魏丞相 写下保状与寡人

咬金回到不识字 你是晚德我不忌
从小不曾讀过書 只好煩勞徐先生
茂公接口福道命 我来代他写状文
忙取四宝来写起 咬金刘享献朝廷
唐王写下赦書表 戴子接到喜笑盈
急忙跑到法场上 喝叫刀下莫斩人
开讀圣旨念一遍 招牌撕法碎纷纷
监斩官儿踏掉了 法场散去一众人
咬金馱了魏丞相 上展謝主不斩恩
天子展上开金口 嗎声魏征老逐臣
不是孤家不斩你 众位皇兄把本申
饒你死罪难饒活 四十御棍不容情

且暫收入天牢內 十日代孤去請神
魏征被打四十棍 披枷帶鎖入牢門
未了滿朝文共武 魏家八子看父親
天牢里召擺下酒 總與丞相來壓膝
魏征眼淌伤心泪 便把總位兄弟稱
我在天牢身遭難 家中一點不知情
意要寫封家書信 煩勞哪位送回程
叔寶秦公并言道 叫声仁兄你放心
兄長速把家書寫 我來代你寄書人
紙墨笔砚取行當 天牢交與老大人
未提笔 先泪淋 信成十字寫書文
魏丞相 在天牢 身遭大難

手提枝 羊毫笔 忙寫書文
上写的 上大人 魏征頓首
多拜上 孔一己 三位夫人
化三千 忻法了 唐王天子
七十二 在獄中 受苦千辛
尔小生 食奉祿 遵公守法
哪一了 八九子 怎替父親
佳作人 寫完了 可知礼也
生夫人 賜回信 為夫放心
因萬歲 欽差我 三界奏請
奈年老 不能去 收禁牢門
程仁兄 鬧金展 硬保十日

十日不亡請一命難存
為夫的有長短莫莫悲切
千萬的看照我九榮姪生
把書信只寫德明二白二
交與那秦琼手叔空將軍
秦二令接家書細看一遍
羞天牌人兩個寄信回程
二天牌接家書收拾行李
辭魏征別眾將上馬動身
出京都高皇城揚鞭打馬
直奔那三谷具去下書文
曉行程夜投宿飢食渴飲

早到了金華府三谷東門
相府外下馬行將馬拴扣
把家書呈門官獻給夫人
賈氏女折家書細看一遍
嗎一聲唐天子无道昏君
記不底金河虜地府告天
出具主出羞票拘保审問
我丈夫寫一封家書出信
帶與那阴世里崔爵府君
張表伯主簿刺偷標換柱
添阳寿二十載復掌乾坤
你江山如鉄桶國太平京城

登龍位 享榮華 忘記了來們
我魏家 將忠心 保扶社稷
沒想到 負义君 不記前情
有一日 天睁眼 赦夫出獄
唐昏君 崩了駕 萬年嗎名
肖氏夫 只以德 心悲意切
將回書 來蜀起 喚進來人
天牌來到厅堂內 拜見三位太夫人
肖氏夫人开言道 有煩二位帶了心
回信一封相煩你 回去送与老大人
相送良子壹百兩 二位路上作盤成
天牌接过称多謝 云府上馬奔京城

將身回到長安國 天牢拜見魏大人
即將回書來呈上 多蒙太二賞賜良
魏征說道難為你 有日云牢再補情
天牌回去无話表 再表唐王萬歲君
佳音去到兰國具 封君魏家大府門
光陰不覺第八日 吓坏朝前文武臣
魏家八子慌張了 怎忘前去替父亲
吓坏咬金程歆子 哪个請神救魏征
抓头摸耳心难过 连我歆头長不成
按下众人心担怕 再表天牢魏大人
折开回書看一遍 一口怨气叹云声
玉皇駕座灵霄展 便问太白李金星

下方何人身有難 只見怨氣透天連

太白向前忙啟奏 玉皇大帝口內稱

下方大國唐天子 要到三界去請神

文武不將_二亡神_一請 限住上方文曲星

魏征天早長嘆氣 故尔惊动玉主君

玉皇一听并玉口 便叫太白李長庚

唐王要把願心了 除非上方捲簾星

魏征生的九兒子 現在崑山讀書文

今年長成十三歲 理當替主了願心

我有寶貝交与你 去叫九郎轉家們

去天帽子登云履 還有降魔索一根

三件寶貝你收好 送与魏家九郎君

太白金星領玉旨 帶領寶貝下天門

下了三十三天界 到了崑山小縣分

金星立站雲端里 看見九郎讀書文

龙头拐杖指一指 九郎矇眊眼難睁

左眼不跳右眼跳 前心不惊后心惊

心惊肉跳座不住 花園玩耍散精神

金星就把神通显 遣只烏鴉空中鳴

烏鴉不住當夫噪 九郎心里暗沉吟

此鳥亡知福福事 莫非家中有事情

父有難來母有難 哥：嫂：有難星

不如去把先生并 收拾回家走一程

將身來到書房內 便把先生口內稱

學生攻書六年正 未曾回家看双亲
今日我要回家去 特来并告老先生
呂宜听说心欢喜 叫声学生小魏徇
既然你要回家转 我今送你贵宝珍
說罢开了書箱子 三元天書手中存
上元甲子交代你 讀熟已知普天星
中元一卷花甲子 念了曉透世上情
下元甲子也把你 看知混沌十八層
送你一本通天律 学习天文地理情
宝剑一把交与你 有話吩咐你記心
此劍上面接七星 降龙降虎斩妖精
九郎双手来接過 收在書箱里邊存

書房拜別先生駕 香房去別師母亲
將身来到香房內 口將师娘叫一声
學生攻書已六年 未曾回家看双亲
今日我要回家转 特来拜別师母亲
师娘听说如此話 便把学生叫一声
今日你要回家去 我也送你贵宝珍
花剪一把相送你 異人传授法术已
剪成紙人和紙馬 撒手放去已交兵
送你一根金釵子 本是犀牛角雕成
若迂江海不遠過 此釵一指現路程
九郎用手来接過 拜別师母出房门
宝贝收在書箱里 还过東修总分清

書房拜別先生駕 又別一眾同學們
肩挑書箱和行李 先生同學送出門
今年今日未分別 何日何時再相見
九郎聽說掉下泪 便叫先生同學們
回家看過双父母 近到母校讀書文
眾人分別轉家們 車表九郎回家去
步：向前將城出 逢人問路往前走
心如箭回家轉 那怕山深和水深
按下九郎路上話 再表雲端李金星
金星落云搖身變 變个白发老年人
將身站在三岔路 幸等魏家九郎君
小魏徇 往前行 傳成十字近仙人

魏九榮在路途 正往前走
見一位年老者 白髮壽星
不知他名和姓 擋住去路
李太白 向前來 先叫郎君
父姓什 母姓誰 家住哪里
你乃是 排行几 叫什學名
少年人 怎不在 書房讀書
為什麼 遊荒外 哪里行程
魏九榮 听德說 回言便答
稱一声 老公 = 听我說明
住浙江 金華府 兰国县城
東門里 紅絨巷 是我家們

我父亲魏玄臣 当朝臣相
母乃是 馬李肖 三位浩命
我的母 生下我 兄弟九个
我乃是 故老九 名叫魏狗
在崑山 六年正 将書攻讀
忽然间 想父母 特回家门
到此处 迷失路 不知去向
望公： 請指点 世不忘恩
李太白 听德說 開言便道
叫一声 魏象子 書生魏狗
我方才 从浙江 兰谷县过
听人說 你象中 遭了难星

你父亲 逆法了 唐王天子
恕老年 免死罪 叔禁牢门
限十天 将神請 官还虎取
十日 后不能請 定罪斩刑
你兄長 人八斤 並無主意
你母親 在后堂 望你回呈
魏九榮 听德說 二目掉泪
望公： 生慈念 搭救父亲
李太白 叫相公 不要啼哭
我老汉 特地来 救你令尊
你赶快 回家报 事为上策
若迟还 担悞了 你父性命

太白金星开言道 叫声魏家九官人
不要在此悲切苦 要救你父快净身
说罢用手只一指 化池清泉绿沉沉
九郎一見心欢喜 丢下書箱脫衣衫
浑身衣服都脫下 跳入池中就净身
一了孟子冒到底 那边余起一死人
九郎一見心难捨 可怜淹死少年人
不知自己凡胎脫 反說別人命归阴
正在惊慌无進退 一陣狂風好惊人
颳去巾儿和鞋袜 只落褌袂共衣衫
九郎一見慌張了 跳入池坊泪纷纷
叫我今朝如何好 蓬头赤脚怎回呈

太白金星开言道 叫声相公莫泪淋
我有一了旧帽子 鞋袜一双总現成
若不嫌旧贈送你 还有緣鳶帶一根
九郎用手忙来接 拜謝公二老年人
头戴冲天帽一頂 腰束降龙索一根
脚下穿起登云履 不大不小总就身
金星當時生一計 那邊来了你父亲
哄住九郎回头望 太白金星駕了云
金星站在雲端里 叫声魏家九書生
我乃不是别一了 巡天御史李長庚
方才送你三件宝 都是无价貴宝珍
夫上戴的冲天帽 冲天入地去請神

脚上穿的登云履 亡走阳元各庙门
腰间束的降龙索 东海借马借龙神
快些合眼念甲子 跟我脚下驾祥云
九郎听说心欢喜 二目闭法紧吞
耳边只听风声响 到了兰国小东门
九郎丢在尘埃地 忙坏云中李长庚
淹埋九郎凡胎体 回到灵霄交旨文
按下金星归上界 单表九郎回家门
按下云头方睁眼 小东门在面当迎
肩背书箱将城进 到了自家大府门
为何不见人来往 门贴封被好几层
九郎用手拉门扣 里边安童把话问

誰人大胆把门拉 不知皇法乱胡行
相爷现在天牢内 八位老爷总在京
前门皇上封了门 后门去见太夫人
九郎听说忙回答 叫声安童小象丁
我乃不是别一个 是你九爷回家门
天大事件总有我 我起封被保闹闹
安童听说好欢喜 慌来九爷转家门
随即双手把门开 九郎迈步往里行
进了一二三座门 音姓无声好冷清
来到五花厅堂上 家中齐哭一条声
高哭好像生身母 低哭犹如婢二门
九郎丢下书箱子 迈开大步走上厅

將身來到后堂內 拜見三位老母親
不孝孩兒回來了 攻書六年未回呈
今日回家來見母 為何哭得這樣形
小魏狗 跪在地 債成十字見母親
魏九榮 向前來 双膝跪下
尊一聲 三位母 听兒話雲
頭頂的 唐天子 花二世界
脚踏的 金塔地 誦二乾坤
除皇亲 弄國戚 我象為大
父丞相 母浩命 皇封為君
不知道 為什麼 母親悲哭
叫你兒 祥不透 思卦在心

果是我 八兄長 忤逆老母
莫非是 众婢二 德對娘親
肖氏夫 听德說 双泪流
叫一聲 九榮兒 你不知情
并不是 八兄長 忤逆与我
說你象 众婢二 和陸孝順
因唐王 遊地府 將願來許
要了那 洪門會 去請三神
恨只恨 王樞密 奸臣奏本
唐天子 选你父 去領公文
你父亲 年紀老 不能去請
怒恼了 唐天子 斬你父亲

程伯父 鬧金屋 硬保十天
十日 不能請 壹命 歸陰
為娘的 搯指算 今朝 九天
到明天 午時刻 性命 難存
枉生下 九个子 成何 有用
皆不能 替你父 斬奸 除根
就為了 這件事 性命 難保
却叫你 為娘的 怎不 伤心
魏九榮 听德說 未二 壹笑
叫一声 亲娘 且大 放寬心
九郎將 身來 爬起 叫声 我且 你放心
儿說未 了天 大事 兒來 這小 事時

母亲 娘：不要 哭 我上 朝廷 見當 今
唐王 肯把 父亲 放 我替 父亲 去請 神
唐王 不把 父亲 放 我与 昏君 拚条 命
兄弟 九子 共人 馬 赤上 京 屢反 昏君
把这 昏王 赤掉 了 扶住 父亲 座 加墩
朝陽 正宮 是我 母 東宮 太子 儿為 君
肖氏 夫人 一声 喝 大胆 畜生 了不 成
魏家 四代 忠良 將 怎肯 落个 反叛 名
你的 胎毛 不曾 干 一口 乳牙 未脫 淨
小三 年紀 說大 話 无道 怎去 請神
厨中 有飯 吃飽 了 遠走 高飞 去逃 命
宁可 去了 年老的 怎肯 度了 少年 人

九郎听说回言答 我母说话理不顺
宁可去了少年的 怎捨父亲老年尊
爹二好比一棵樹 連根拔去影无形
儿比园中嫩菲菜 割去天刀二刀来
就是孩儿有长短 八寸兄長斧双亲
母亲说我年纪小 鬼将古人比你听
甘露十二歲為丞相 儿比甘露長一奏
楊香十二歲亡打虎 王祥十四歲卧寒冰
紅孩当初年纪小 五十三捺拜观音
四个金剛发身大 反与和尚看庙门
灯笼虽大没斤两 秤鉞虽小压千斤
今日天晚来不及 明日大早儿上京

說罢手捧書箱子 轉灣抹角奔書庭
点起一支通蜡烛 用过晚飯看書文
用心学习通天律 三元天書学完成
一夜就把書讀熟 次日五更大天明
九郎洗脸吃早膳 正起衣帽走上厅
七星宝剑腰间掛 花剪金釵帶在身
将身来到后堂内 拜見三位老母亲
今朝有了十日正 儿上京都替父亲
肖氏夫人听德說 我儿說話欠聰明
長安离此路途远 今日怎德到京城
就是赶到長安地 要救你父不可已
年小那知皇家礼 騰雲駕霧你怎已

九郎回言不方事 叫声母亲你放心
國家礼仪儿皆恪 騰雲駕霧旧营生
母亲嫂：休悲切 三日之内看父亲
肖氏夫人无可奈 一声长叹叫姣生
我儿定要上京去 諸凡事件要小心
進朝先會二兄長 細心小胆見唐王
看見和尚叫長老 近到道士称玄真
年老之人称伯叔 同年班称兄弟們
九郎回言儿曉德 不必母亲細叮吟
无用兄長会什的 國法礼仪总知情
看見和尚叫秃驢 近到道士罵犬生
年老之人当儿子 同年班輩称会孫

肖氏夫人慌張了 冤家必定惹禍根
九郎来到天井里 是个神通与母亲
口内念动花甲子 脚下悠：騰了雲
叫声母亲儿去了 保重贵体莫劳神
肖氏夫人抬頭看 拍手打掌笑个昏
好了好了真好了 魏家又出一能人
太：在家安心放 单表九郎去見君
一駕祥云来德快 到了長安大國城
接落雲頭登凡地 到了唐王午朝門
皇門官儿二兄長 九郎向前把禮行
杀星宝剑交与你 弟去見駕救父亲
魏坎連忙来接过 你去見駕要小心

九郎答应称晚德 顛目大胆進午門
將身來到金屏下 二十四拜見当今
天子屏上開金口 便向屏下少年人
你是朝前誰家子 快：奏与孤家聞
寡人不曾招选你 顛見寡人為何因
九郎开言便启奏 口稱萬歲納小臣
我是魏征第九子 名叫九榮字魏徇
主公要把神未請 臨住我父在牢門
望主早把我父放 我代主公去請神
天子听了心大怒 喝嗎魏家小逐臣
孤家江山該要天 孩童也來戏寡人
喝叫金瓜和武士 餅下枉生小魏徇

金瓜武士朝上湧 向前來餅九郎君
九郎一見心里想 記起天書上面云
念：定身咒語看 試：阴阳灵不灵
口内念起定身咒 定住金瓜武士們
兩班文武如釘定 朝看九郎暖眼睛
九郎一見心欢喜 大起胆來叫唐君
小臣謊言冒犯你 快点餅我向点形
天子一吓慌張了 叫声魏家小愛卿
你說會把神未請 放了武士破天文
若知天文和地理 方可三界去請神
九神念起放身咒 金瓜武士总动身
放了金瓜和武士 九郎向前启奏君

談起天文和地理 从小念的上大人
只要主公云題目 小臣對答請你听
唐王一想开金口 叫声鄉象听寡人
天到地文略端有說九不多遠 南北周圍那方寬
日出東方何處云 几里推雲塞海岸
星月占地多少亩 世上草木有几盘
什么星儿前娘养 什么星裏穗眼睛
什么星下方受孤独 什么星下界匡田圃
什么星儿下界殘人血 什么星下界做高官
什么星儿懸空挂 什么星君靠定盤
什么星下高淮護河口 什么星緊靠非月也川
天上淮河有几块 几曲几弯住星元

頭壹弯子那了住 第二弯子哪了安
哪弯对了第几弯 第几弯里有桃園
多少年开花多少年结果 多少年成熟果周全
供结多少仙桃子 多少甜来多少酸
哪了偷桃誰人吃 哪了吃桃說桃酸
什么人在帝来看 什么人庆祝过桃園
什么人吃了仙桃子 与天同庆没春寒
天上那了常十八 看見淮河几次旱
月里老儿姓什么 几岁提斧砍梭罗
手执斧头几斤重 哪方砍下一枝柯
月中梭罗共几枝 几支長来几支知
几支的長朝上長 几支短的往下圓

金鷄站在那支上 夫朝那里鬧喧
說一盤未破一盤 量天尺是哪寸傳
這是天文一段景 赶快对孤从直喧
你若对出天文理 封你三界符使官
如有一言对错了 推占午門斬兩段
九郎金塔忙召奏 口称万岁听臣喧
主公說的混天球 為臣知道本根由
天到地共六千七百个里半 東西窄来南北寬
日出東方巫桑云 萬里推雲寒海岸
星月占地三十亩 世上草木总一盤
灯草星儿前娘养 石頭星儿后娘侍
石頭星担过淮河口 灯草星儿振德眼睛川

巽高星下方受孤独 和合星下界臣困困
白虎星下界残人血 文曲星下界做高官
北斗星悬空七挂 紫微星君靠足盤
踏車星不离淮河口 鳥儿星紫塔月边川
天上淮河共九曲 四曲五弯住星元
頭壹弯子張郎住 第二弯子李郎安
三曲對了第六弯 九弯里面有桃园
千年开花三千年才结果 三千年成熟菓固全
共结九百仙桃子 四百甜来五百酸
行者偷桃唐僧吃 唐僧吃桃喊桃酸
二郎在旁来看守 八仙庆祝过桃园
王母吃了仙桃子 与天同庆没春寒

天上二郎常十八

記德淮河三次旱

月里老儿奉姓吳

七歲提斧砍梭羅

手執斧頭七斤重

東南砍下一支柯

月中梭羅共九支

四支長來五支短

四支長的朝上長

五支短的往下圓

金鷄站在中枝上

頭朝西北鬧喧

說一盤未破一盤

量天又是二郎傳

這是天文一段景

果曾差錯半毫分

萬歲聽說心歡喜

叫聲魏家九愛鄉

你能對出天文理

听孤封贈你當身

上界天仙八郎官

凌霄屏上請玉君

中界雲仙九郎官

去請東嶽天齊神

下界水仙五郎官

幽冥地府請閻君

三界符官都是你

只換衣帽不換人

儒釋道教都敬你

洪山堂內你為尊

萬歲封了大半刻

九郎在下不謝恩

天子看之有開口

便叫鄉家听寡人

是否嫌孤封贈小

鄉家為何不謝恩

九郎一听忙启奏

謝主龙恩雨露深

官位不問大和小

父在天牢我不放心

望主早把我父親赦

我到三界去請神

唐王天子龙心喜

這是忠孝兩全人

即把赦書來寫起

交与九郎手中存

九郎接过赦書旨

拜謝万岁奔牢門

后跟凡肖人一众 总是魏征结拜人
徐勣秦琼尤俊达 拍掌大笑程咬金
高叫仁侄慢些走 我们去看你全尊
众人来到天牢内 只见丞相变了形
手铐脚钁闹床上 长吁短叹放悲声
人二看见心悲惨 乃二伤心泪淋淋
父子九了为官取 势压秦廷谁不闻
真是伴君如伴虎 官高鲁显古人云
九郎未到天牢内 拜见生身老父亲
不孝孩儿离膝下 攻书六年未探亲
昨日回家探过母 今日上朝替父亲
众朝官 闹吐了 传成十字进牢房

魏九荣进天牢 高官排犖犖
叫狱官快点起 银烛辉煌
四周围 看不见 府罗将相
老魏征 在闹床 执热愿凉
众公卿 向前来 矫手顿足
把魏征 忙扶起 蓝笥象床
除刑具 忙代起 宣威沙漠
浑身上 更换衣 乃服衣裳
天牢内 设一张 户封八仙
桌子上 摆酒觞 菜重芥薑
你一杯 他一盏 川流不息
蒙众兄 情难捨 岂敢毁伤

魏玄臣用飽了具膳餐飯
講的是國家話靡特己長
忽想起國唐白玉龍師大帝
恨只恨王樞密鳥宮人皇
唐太宗罵三封牋帖簡要
定要我去請神天地玄黃
回年老不亡去弔民法罪
丟在那天牢內器欲難量
若不是曹國公孔怀兄弟
要不然老性命捕獲叛雲
今日里亏九榮扰子比儿
上金屏奏帝主賴及万方

魏丞相說不尽因談彼短
众朝官只听臣惊懼恐惶
言不尽千字文鳴鳳在釘
請魏征出天牢白狗食坊
九郎扶起生身父众人跟隨云蓋房
天牢自有人收拾單表魏征見唐王
將身來到金階下二十四拜見圣上
唐王抬頭睜眦目不却心中叹一場
倭屈丞相年迈老髮二蒼二如白霜
孤家再不駕封他众位皇兄冷心腸
萬歲志竿高危位御手相揆叫丞相
不是孤家難為你九郎怎肯保孤王

三谷錢糧孤不要 賜与卿家養元常
門前造起下馬牌 文武百官拜忠良
皇亲太子都下馬 孤行三步过府堂
免死金牌賜与你 永不遺你上朝綱
魏征即忙把恩謝 辞王別駕出朝綱
来了滿朝文武共 魏家八子接得慌
叔皇帝来旨行馬 口称丞相你莊莊
這是仁兄騎来馬 今日奉还你回鄉
魏征說道难為你 多蒙众位費心場
辞別咬金程款子 即刻上馬出朝綱
九郎隨後也来了 双膝跪下叫父王
孩儿尽忠难尽孝 不旨回家拜別娘

魏征听说流下泪 叫声我儿魏九郎
你代主公将神請 细心小胆見唐王
替主了过洪門會 早回家見親娘
不表魏征回相府 再表九郎見唐王
将身來到金塔下 口称萬歲駕在上
臣替主公将神請 萬歲果曾备表計
唐王回道現成的 三日之前就行当
文官修成三道表 武将写好帖三張
三宮娘娘做封套 寡人玉玺印在上
九郎双手忙接过 又称唐王有道王
我道三界将神請 才要三色馬綠纒
唐王說道有二二 孤有尢馬請三皇

唐僧取经白龙馬 亡到上界請玉皇
漢王遺下黃彪馬 亡請東嶽天齊王
三色龍馬有兩匹 少匹下界請地王
孤冒一道皇圣旨 要去借馬找龙王
說罢圣旨來冒好 九郎接手呈身上
开言又叫萬歲主 火盆一了要行当
萬歲展上佳下旨 即刻火盆摆展上
九郎一見火盆到 显了神通吓唐王
將身跳入火盆内 連人代表火中王
金展俯伏王樞密 又來戏害魏丞相
九郎不亡將神請 懼法投火把命喪
燒死九郎不要緊 可惜龙楼表三章

此為金蟬脫壳計 子替父死孝名揚
唐王回言不方事 趕回魏征把罪当
九郎雲端开言道 口称万岁有道王
火化龙楼三道表 才亡三界請三皇
臣到東海去借馬 又舒我父是怎样
唐王皇帝抬頭看 望見九郎在天上
上天无繩把他系 地上又无撑地棒
人二都是父母養 為何九郎法力強
想必孤家洪福大 云此亡臣保朝綱
叫声卿家下來吧 体要吓坏你孤王
九郎收雲金塔站 口叫樞密你思量
魏家与你何仇隙 三番兩次伤天良

果知害人必害己 尽忠保國子孫昌
我要害你不費力 大人心中細參詳
說德奸賊無言對 改惡從善做忠良
九郎辭別唐王主 又別文武出朝綱
別過魏坎二兄長 七星宝剑帶身上
進朝出朝天阻隔 九郎救父回府上
此書就从這里止 大家休息談家常
要知九郎後來事 東海借馬鬧龍王
今天唱書不好听 要請各位要阮涼
一來字眼不分淨 二來噪子也平常
諸位不覺噪子丑 明天再請會傷听
托壺瓶 酒滿斟 在會人等發萬金(完)

如皋童子戯唱本目録(稿)

上田 望 編

題目	抄寫者	抄寫時期	葉數	地點	備考
魏九郎出世／九郎官三界請神	夏伯銀氏が雇った抄工	1999年	41	如皋市東陳鎮	書名については、表紙及び末葉には「魏九郎出世」とあるが、見開きには「九郎官三界請神」とある。抄寫時期については末葉に「1999年農12月18日録」とある。
魏九榮出世	夏伯銀	未詳	62	如皋市東陳鎮	表紙に「魏九榮出世／全集／敬業一心堂／夏伯銀」とある。
三界表全本	夏伯銀	未詳	22	如皋市東陳鎮	見開きには「三界表全本 三箇十字」とある。また末葉に護符に関する記述?
三逼記	冒建華	1998年	28	如皋市東陳鎮	表紙に「如皋市東陳鎮十三大隊9隊冒建華唱用／三逼記／1998年元月元日」と記されている。
珍珠塔	李家和 (山河村在住の童子戯愛好家)	2002年	47	如皋市東陳鎮	表紙に「弘山堂」の文字があるが「洪山堂」の誤り。見開きには「珍珠塔／二零〇二年農曆庚午三月中旬／李家和録抄」とある。「庚午」の横には「壬午」の2文字が書き添えられており、こちらのほうが正しい。明代の故事。方卿が科挙に合格し、彼に珍珠の宝塔を贈った翠娥及び賽金と結婚するという才子佳人物。弾詞や越劇など多くの芸能・演劇にレパートリーがある。
薛丁山征西全本	李家和	2005年	23	如皋市東陳鎮	抄寫者は記されていないが、字体からみて李家和氏。表紙には「演唱薛丁山征西全本／歲次乙酉鷄年七月下旬録寫」とあるが、見開きには「演唱薛丁山征西全集／歲次乙酉鷄年7月中旬曆録」とある。
劉金定三下南唐上下集	李家和	2004年	43	如皋市東陳鎮	表紙に「劉金定三下南唐上下集／甲申年 李家和抄録」とある。宋代物。《劉金定大戰南唐》または《宋太祖下南唐》というタイトルで知られ、評書など多くの芸能に演目がある。
羅通掃北全集	李家和	2005年	37	如皋市東陳鎮	見開きに「羅通掃北全集／歲次乙酉鷄年七月上旬曆録／隴西堂李記」とある。また、末葉に「第一箇十字」云々の記述がある。《羅通征北》、《說唐後傳》、《羅成叫關》、《興唐後傳》など様々な題名で評書を初め、多くの芸能に取り上げられている作品。
陳世美不認前妻	李家和	2004年	47	如皋市東陳鎮	表紙に「陳世美不認前妻／歲次甲申年冬月下旬／李 隴西堂」とあり、見開きに「陳世美不認前妻／二〇〇四年冬月下旬／李家和録」とある。宋代物。《秦香蓮》として有名。
金鏢記全集	夏伯銀	1998年	68	如皋市東陳鎮	表紙に「金鏢記全集／敬業一心堂／夏伯銀抄」とある。「鏢」は「業」の誤りであろう。末葉に「金鏢記全本念完 夏伯銀抄／公元一九九八年農曆前五月二十日出板」とある。内容は高文亮が前妻の陸丁香と二人の子供を捨てる話である。《金鏢記》は山西沁県の沁州三弦書に同名のものがあるが内容が同じかどうか不明。浙江衢州市の浙西道情、金華市の金華道情にも《金鏢記》の演目がある。このほか『古本戯曲劇目提要』にも《金鏢記》の紹介がある。
乾隆皇帝下關西上下全集	夏伯銀	1991年	37	如皋市東陳鎮	表紙に「乾隆皇帝下關西上下全集／夏伯銀抄」とある。また末葉に「一九九一年農曆五月十二日出板／夏伯銀抄」とある。
兄妹分裙	冒建華	1995年	30	如皋市東陳鎮	表紙に「兄妹分裙／冒建華」とあり、第一葉行頭に「如皋市東陳鎮十三大隊九隊 冒建華唱用」とある。また末葉に「一九九五年三月初五日抄録」とある。明代成化年間の兄妹の物語。

如皋童子戲唱本目錄（稿）

上田 望 編

白馬駝尸劉文英／玉帶記	冒建華	1997年	38	如皋市 東陳鎮	表紙に「白馬駝尸劉文英（玉帶記）／冒建華手抄／如皋東陳楊枝九組／（97.1）」とある。「駝」は「馱」の誤りであろう。第24葉に「那見白馬跔死人」とある。宋代故事。劉文英（金童）と陸青蓮（玉女）の物語。楊二という悪人に殺された劉文英の死体を白馬が見つけて運び出し、包公が裁くという筋立て。越劇《碧玉帶》とこれと同じ配役であるが、木魚書の《碧玉帶》は時代設定が唐代で全く異なる。また紹興安昌には《碧玉帶宝卷》もあるという。
楊家將／兩狼山小祭祖	冒建華	2004年	34	如皋市 東陳鎮	表紙に「《楊家將》／兩狼山小祭祖／唱書藝人：冒建華／家庭住址：如皋東陳楊枝九組」とある。また末葉に「公元二〇〇四年十月二十七日落筆」とある。末葉に「大祭祖上表分明」という唱句がある。楊家將物。